

科目名	保健科学研究法	担当教員	齋藤 圭介	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	保健科学研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年					
講義概要・一般目標	<p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障がい者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り込まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家である理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていく必要がある。</p> <p>これから諸君は、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となるが、「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければならない。保健科学研究法は、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する上で総論的な意味を有しており、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる基本的な考え方と知識を修得する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・論文の読み方のポイントを身につけることができる。 ・保健科学的視座に立った研究デザインの基本的考え方を説明できる。 ・保健科学分野におけるサンプリングなどの研究手続きや基本的考え方を説明できる。 					
評価方法	科目修了試験により評価。口頭試問により学習内容の理解の深度を評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>レポート課題の出題内容は、理学療法学の研究を進めていく上で、広く保健科学研究の方法論を学修することをねらいにしたものである。また課題の順序性は、研究計画の具体化とリンクするよう設定している。</p> <p>レポート課題をまとめるにあたっての留意点として、レポート課題は、課題に即した自己学修成果をまとめる「学修成果のまとめ」、そして「自身の研究テーマとの関連」の二章で構成すること。効果的な学修の流れとして、上記の構成順に学修を進めること、参考文献に限らず他の書籍や先行研究の論文に広く目を通す姿勢が望ましい。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp					

課題内容

第 1 回	レポート課題	保健科学に関連した研究疑問の設定について
	レポート作成のポイント	保健科学における研究は、臨床活動の経験から得られる疑問から取り組み始めることが常ではありますが、疑問点は漠然としていたり、研究テーマにならなかつたりすることは少なくありません。そこで、あなたの疑問点を適切な研究テーマとするために行うべき工夫について調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、理想とする内容をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年 ・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖(編) 医学書院 2013年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポート課題	保健科学に関連した臨床研究を進めるための倫理的問題と対処手続き
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究に取り組むためには、生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法を研究対象者に適用していくことが多いですが、その場合には研究対象に対して様々な倫理的配慮を行う必要があります。そこで、あなたの臨床疑問に関係した生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法に対して、研究を進めていく場合の倫理的要件をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポート課題	研究デザインを設定する必要性とその種類について
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究においては、適切な研究デザインの設定が求められます。あなたの臨床疑問について研究を進めていくと仮定した場合、なぜ研究デザインを設定する必要があるのか、その理由と意義についてまとめて下さい。また研究デザインの種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け、適用する研究の具体例についてまとめて下さい。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年 ・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖(編) 医学書院 2013年
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	保健科学研究法	担当教員	原田 和 宏	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テ ー マ	保健科学分野で求められるリサーチ・クエスチョン					
使用するテキスト	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年					
講義概要・一般目標	<p>日本の保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り込まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家である理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかななくてはならない。</p> <p>今後、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となるが、「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければならない。保健科学研究法は、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する上で総論的な意味を有しており、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学修するものである。</p> <p>以上により、高度な医学的リハビリテーションに関する科学的知識、保健科学領域の問題解決に向けた論理的思考能力と表現技術を習得する。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつける視点、およびその問題と疑問の解決方法を科学的に具体的に説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>レポート課題をまとめるに当たっての留意点：</p> <p>1頁目は表紙とし、課題名、学籍番号、氏名と共に提出日（第1回目、第2回目、最終提出日）を記載下さい。レポート本文では、テキストや文献資料を引用し、課題に関する一般的な知識を整理いただき、次に、自身の研究テーマ（仮）に当てはめて、その課題を考えてみて下さい。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	k_harada@kiui.ac.jp					

課題内容

第1回	レポート課題	保健科学に関連した研究疑問の設定について
	レポート作成のポイント	保健科学における研究は、臨床活動の経験から得られる疑問から取り組み始めることが常ではありますが、疑問点は漠然としていたり、研究テーマにならなかつたりすることは少なくありません。そこで、あなたの疑問点を適切な研究テーマとするために行うべき工夫について調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、理想とする内容をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第2回	レポート課題	保健科学に関連した臨床研究を進めるための倫理的問題と対処手続き
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究に取り組むためには、生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法を研究対象者に適用していくことが多いですが、その場合には研究対象に対して様々な倫理的配慮を行う必要があります。そこで、あなたの臨床疑問に関係した生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法に対して、研究を進めていく場合の倫理的要件をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第3回	レポート課題	対照群の設定と研究デザインについて
	レポート作成のポイント	リハビリテーション研究においては、治療の効果検証をはじめ、評価技術や予後の特徴を検討する場合にも対照群(コントロール群)を設定することが多いです。そこで、あなたの臨床疑問点について研究を進めていくと仮定した場合、どのような比較対象を設定する必要があるのか、またどのように募集したり準備したりするべきであるのかまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	保健科学研究法	担当教員	井上 茂樹	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	保健科学研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年					
講義概要・一般目標	<p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家である理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかななくてはならない。</p> <p>これから諸君は、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となるが、「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければならない。保健科学研究法は、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する上で総論的な意味を有しており、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学修するものである。</p>					
到達目標	保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について理解することを目標とする。					
評価方法	科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>教員が提示する資料、指定したテキスト、参考図書、参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから、スクーリングにおける解説・指導を行います。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	s_inoue@kiui.ac.jp					

課題内容

第 1 回	レポート課題	保健科学に関連した研究疑問の設定について
	レポート作成のポイント	保健科学における研究は、臨床活動の経験から得られる疑問から取り組み始めることが常ではありますが、疑問点は漠然としていたり、研究テーマにならなかつたりすることは少なくありません。そこで、あなたの疑問点を適切な研究テーマとするために行うべき工夫について調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、理想とする内容をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年 ・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖(編) 医学書院 2013年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポート課題	保健科学に関連した臨床研究を進めるための倫理的問題と対処手続き
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究に取り組むためには、生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法を研究対象者に適用していくことが多いですが、その場合には研究対象に対して様々な倫理的配慮を行う必要があります。そこで、あなたの臨床疑問に関係した生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法に対して、研究を進めていく場合の倫理的要件をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポート課題	研究デザインを設定する必要性とその種類について
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究においては、適切な研究デザインの設定が求められます。あなたの臨床疑問について研究を進めていくと仮定した場合、なぜ研究デザインを設定する必要があるのか、その理由と意義についてまとめて下さい。また研究デザインの種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け、適用する研究の具体例についてまとめて下さい。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年 ・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖(編) 医学書院 2013年
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	保健科学研究法	担当教員	森下元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	保健科学研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年 ・『理学療法NAVI 臨床研究 first stage』 網本和・高倉保幸編 医学書院 2017年					
講義概要・一般目標	<p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家である理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上的問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかななくてはならない。</p> <p>これから諸君は、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となるが、「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければならない。保健科学研究法は、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する上で総論的な意味を有しており、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学修するものである。</p>					
到達目標	<p>保健科学における研究疑問を定式化できる。</p> <p>保健科学の研究における倫理的配慮について列挙できる。</p> <p>保健科学に関する研究デザインについて説明できる。</p> <p>保健科学に関する研究デザインの具体例を挙げる事が出来る。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>研究疑問の設定やデザインの設定など、大学院で進める研究の基本的な考え方を学習します。</p> <p>自身の研究テーマに関して、いま一度教科書や文献などから内容を整理して考えてみてください。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	m_mori@kiui.ac.jp					

課題内容

第 1 回	レポート課題	保健科学に関連した研究疑問の設定について
	レポート作成のポイント	保健科学における研究は、臨床活動の経験から得られる疑問から取り組み始めることが常ではありますが、疑問点は漠然としていたり、研究テーマにならなかつたりすることは少なくありません。そこで、あなたの疑問点を適切な研究テーマとするために行うべき工夫について調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、理想とする内容をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年 ・『理学療法 NAVI 臨床研究 first stage』 網本和・高倉保幸編 医学書院 2017年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポート課題	保健科学に関連した臨床研究を進めるための倫理的問題と対処手続き
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究に取り組むためには、生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法を研究対象者に適用していくことが多いですが、その場合には研究対象に対して様々な倫理的配慮を行う必要があります。そこで、あなたの臨床疑問に関係した生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法に対して、研究を進めていく場合の倫理的要件をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年 ・『理学療法 NAVI 臨床研究 first stage』 網本和・高倉保幸編 医学書院 2017年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポート課題	研究デザインを設定する必要性とその種類について
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究においては、適切な研究デザインの設定が求められます。あなたの臨床疑問について研究を進めていくと仮定した場合、なぜ研究デザインを設定する必要があるのか、その理由と意義についてまとめて下さい。また研究デザインの種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け、適用する研究の具体例についてまとめて下さい。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年 ・『理学療法 NAVI 臨床研究 first stage』 網本和・高倉保幸編 医学書院 2017年
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	保健科学研究法	担当教員	香川 幸次郎	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	保健科学分野で求められるリサーチ・クエスチョン					
使用するテキスト	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年					
講義概要・一般目標	<p>日本の保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り込まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家である理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかななくてはならない。</p> <p>今後、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となるが、「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければならない。保健科学研究法は、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する上で総論的な意味を有しており、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学修するものである。</p> <p>以上により、高度な医学的リハビリテーションに関する科学的知識、保健科学領域の問題解決に向けた論理的思考能力と表現技術を習得する。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつける視点、およびその問題と疑問の解決方法を科学的に具体的に説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	事前：研究テーマに沿った領域の文献を読み込む。事後：研究疑問の座標軸（自己の研究の位置づけ）を確かなものにする。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	別途指示					

課題内容

第 1 回	レポート課題	保健科学に関連した研究疑問の設定について
	レポート作成のポイント	保健科学における研究は、臨床活動の経験から得られる疑問から取り組み始めることが常ではありますが、疑問点は漠然としていたり、研究テーマにならなかつたりすることは少なくありません。そこで、あなたの疑問点を適切な研究テーマとするために行うべき工夫について調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、理想とする内容をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子，木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポート課題	保健科学に関連した臨床研究を進めるための倫理的問題と対処手続き
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究に取り組むためには、生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法を研究対象者に適用していくことが多いですが、その場合には研究対象に対して様々な倫理的配慮を行う必要があります。そこで、あなたの臨床疑問に関係した生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法に対して、研究を進めていく場合の倫理的要件をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子，木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポート課題	対照群の設定と研究デザインについて
	レポート作成のポイント	リハビリテーション研究においては、治療の効果検証をはじめ、評価技術や予後の特徴を検討する場合にも対照群（コントロール群）を設定することが多いです。そこで、あなたの臨床疑問点について研究を進めていくと仮定した場合、どのような比較対象を設定する必要があるのか、またどのように募集したり準備したりするべきであるのかまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子，木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	理学療法学研究法	担当教員	齋藤 圭介	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	理学療法学分野の研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	<p>・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年</p> <p>・『医療専門職のための研究論文の読み方ー批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著， 津富宏訳 金剛出版 2007年</p> <p>・『あなたもできるデータの処理と解析』 岩淵千明（編著） 福村出版 1997年</p>					
講義概要・一般目標	<p>臨床の科学である理学療法は，人間を身体的，精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え，治療し，支援していくものである。それ故，「理学療法学」の学術的発展と，科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには，臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い，科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。</p> <p>理学療法学研究法は，保健科学研究法に引き続き，本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する必修科目として設定し，理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。具体的には，理学療法における実践能力の向上をめざすとともに，修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識を修得する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法学分野における，症例研究や介入方法論をも含めた各種研究における研究デザインの基本的位置づけや考え方を説明できる。 ・理学療法学分野の研究における測定と評価の基本的考え方を説明できる。 ・研究成果を公表する上で必要となる統計処理の一般的方法論を説明できる。 					
評価方法	科目修了試験により評価。口頭試問により学習内容の理解の深度を評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>レポート課題の出題内容は，「保健科学研究法」の課題と共に，理学療法学の研究を進めていく上で必要な研究方法論について学修することをねらいにしたものである。課題の順序性は，研究計画の具体化とリンクするよう設定している。</p> <p>レポート課題をまとめるにあたっての留意点として，レポート課題は，課題に即した自己学修成果をまとめる「学修成果のまとめ」，そして「自身の研究テーマとの関連」の二章で構成すること。効果的な学修の流れとして，上記の構成順に学修を進めること，参考文献に限らず他の書籍や先行研究の論文に広く目を通す姿勢が望ましい。フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp					

課題内容

第 1 回	レポート課題	理学療法学研究における文献レビューと対象の選定
	レポート作成のポイント	研究デザインを設計するためには、文献レビューは不可避です。文献検索などによって収集した論文について、どういった視点からどんな情報を読みとっていくべきなのかについてまとめてください。また、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証するための対象の選定について、適格条件（組み入れ／除外基準）について検討してください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される望ましい内容について述べてください。
	参考文献	・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著， 津富宏訳 金剛出版 2007年
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポート課題	理学療法学研究における relevance（関連性）
	レポート作成のポイント	一般的に研究は、得られた成果が何らかの事象に貢献する事が必要であり、理学療法学の発展や対象者の利益につながる必要があります。そこで、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証した場合にどのような利益（臨床的な意義や学術的な意義）がもたらされることになるのかまとめてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される内容について述べてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子， 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポート課題	理学療法学研究において必要となる基本的な統計手法の整理
	レポート作成のポイント	測定によって得られたデータは、そのままの状態ではデータでしかありません。何らかの事象を証明するためには統計処理が不可欠であり、研究目的やデータの種類に即し適切な手法を選択し実証しなければなりません。ここでは、代表的な統計手法である「差の検定（群間比較，前後比較，変化パターンの比較）」ならびに「相関分析」について種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け，適用する研究の具体例についてまとめて下さい。またデータの種類（尺度）とパラメトリック検定・ノンパラメトリック検定との関係について考察してください。
	参考文献	・『あなたもできるデータの処理と解析』岩淵千明（編著） 福村出版 1997年
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	理学療法学研究法	担当教員	原田 和 宏	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テ ー マ	理学療法学分野で求められる研究デザインの設計					
使用するテキスト	<p>・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年</p> <p>・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著，津富宏訳金剛出版 2007年</p>					
講義概要・一般目標	<p>臨床の科学である理学療法は，人間を身体的，精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え，治療し，支援していくものである。それ故，「理学療法学」の学術的発展と，科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには，臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い，科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。</p> <p>理学療法学研究法は，保健科学研究法に引き続き，本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する必修科目として設定し，理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。具体的には，理学療法における実践能力の向上をめざすとともに，修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め，研究デザインの設計，症例研究法，測定・評価法，介入方法論，研究成果を公表する方法等について習得する。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつける視点，およびその問題と疑問の解決方法を理学療法的でかつ具体的に説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>レポート課題をまとめるに当たっての留意点：</p> <p>1頁目は表紙とし，課題名，学籍番号，氏名と共に提出日（第1回目，第2回目，最終提出日）を記載下さい。レポート本文では，テキストや文献資料を引用し，課題に関する一般的な知識を整理いただき，次に，自身の研究テーマ（仮）に当てはめて，その課題を考えてみて下さい。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	k_harada@kiui.ac.jp					

課題内容

第 1 回	レポート課題	理学療法学研究における文献レビューと対象の選定
	レポート作成のポイント	研究デザインを設計するためには、文献レビューは不可避です。文献検索などによって収集した論文について、どういった視点からどんな情報を読みとっていくべきなのかについてまとめてください。また、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証するための対象の選定について、適格条件（組み入れ／除外基準）について検討してください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される望ましい内容について述べてください。
	参考文献	・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー，イアン・K著，津富宏訳金剛出版 2007年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子，木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポート課題	理学療法学研究における relevance（関連性）
	レポート作成のポイント	一般的に研究は、得られた成果が何らかの事象に貢献する事が必要であり、理学療法学の発展や対象者の利益につながる必要があります。そこで、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証した場合にどのような利益（臨床的な意義や学術的な意義）がもたらされることになるのかまとめてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される内容について述べてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子，木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポート課題	理学療法学研究における比較のための統計的配慮
	レポート作成のポイント	研究はその知見の一般化，さらには科学的発展を遂げるために、信憑性のある成果の公表を図っていかなければいけません。理学療法学研究についても同様ですが、その前提として信憑性のある成果を得るために統計処理を行うことが多いです。ここでは、理学療法学で多用される「比較」の手法（群間比較，前後比較，変化パターンの比較）について、あなたの研究テーマに照らしながら、データのタイプ，統計手法，結果の解釈をまとめてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子，木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	理学療法学研究法	担当教員	井上 茂樹	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	理学療法学分野の研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	<p>・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年</p> <p>・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著，津富宏訳 金剛出版 2007年</p> <p>・『あなたもできるデータの処理と解析』 岩淵千明（編著） 福村出版 1997年</p>					
講義概要・一般目標	<p>臨床の科学である理学療法は、人間を身体的、精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え、治療し、支援していくものである。それ故、「理学療法学」の学術的発展と、科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには、臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い、科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。</p> <p>理学療法学研究法は、保健科学研究法に引き続き、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する必修科目として設定し、理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。具体的には、理学療法における実践能力の向上をめざすとともに、修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め、研究デザインの設計、症例研究法、測定・評価法、介入方法論、研究成果を公表する方法等について習得することを目標とする。</p>					
到達目標	修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め、研究デザインの設計、症例研究法、測定・評価法、介入方法論、研究成果を公表する方法等が説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	教員が提示する資料、指定したテキスト、参考図書、参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから、スクーリングにおける解説・指導を行います。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	s_inoue@kiui.ac.jp					

課題内容

第 1 回	レポート課題	理学療法学研究における文献レビューと対象の選定
	レポート作成のポイント	研究デザインを設計するためには、文献レビューは不可避です。文献検索などによって収集した論文について、どういった視点からどんな情報を読みとっていくべきなのかについてまとめてください。また、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証するための対象の選定について、適格条件（組み入れ／除外基準）について検討してください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される望ましい内容について述べてください。
	参考文献	・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著， 津富宏訳 金剛出版 2007年
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポート課題	理学療法学研究における relevance（関連性）
	レポート作成のポイント	一般的に研究は、得られた成果が何らかの事象に貢献する事が必要であり、理学療法学の発展や対象者の利益につながる必要があります。そこで、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証した場合にどのような利益（臨床的な意義や学術的な意義）がもたらされることになるのかまとめてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される内容について述べてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子， 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポート課題	理学療法学研究において必要となる基本的な統計手法の整理
	レポート作成のポイント	測定によって得られたデータは、そのままの状態ではデータでしかありません。何らかの事象を証明するためには統計処理が不可欠であり、研究目的やデータの種類の即し適切な手法を選択し実証しなければなりません。ここでは、代表的な統計手法である「差の検定（群間比較，前後比較，変化パターンの比較）」ならびに「相関分析」について種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け，適用する研究の具体例についてまとめて下さい。またデータの種類（尺度）とパラメトリック検定・ノンパラメトリック検定との関係について考察してください。
	参考文献	・『あなたもできるデータの処理と解析』 岩淵千明（編著） 福村出版 1997年
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	理学療法学研究法	担当教員	森下元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	理学療法学分野の研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	<p>・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年</p> <p>・『医療専門職のための研究論文の読み方ー批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著， 津富宏訳 金剛出版 2007年</p> <p>・『医療系研究論文の読み方・まとめ方——論文のPECOから正しい統計的判断まで』 対馬栄輝著 東京図書 2010年</p>					
講義概要・一般目標	<p>臨床の科学である理学療法は，人間を身体的，精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え，治療し，支援していくものである。それ故，「理学療法学」の学術的発展と，科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには，臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い，科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。</p> <p>理学療法学研究法は，保健科学研究法に引き続き，本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する必修科目として設定し，理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。具体的には，理学療法における実践能力の向上をめざすとともに，修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め，研究デザインの設計，症例研究法，測定・評価法，介入方法論，研究成果を公表する方法等について習得することを目標とする。</p>					
到達目標	<p>理学療法学に関する文献の批判的吟味を行うことが出来る。</p> <p>理学療法学の研究の対象の基準について説明できる。</p> <p>理学療法学の研究意義に関して説明できる。</p> <p>理学療法学研究に関する統計学的手法をそれぞれ説明することが出来る。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>大学院の研究を進めるにあたっての意義や解析の方法を学んでいきます。自身の研究を振り返り，教科書や文献からいま一度意義や予定する解析の方法を整理してください。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	m_mori@kiui.ac.jp					

課題内容

第 1 回	レポート課題	理学療法学研究における文献レビューと対象の選定
	レポート作成のポイント	研究デザインを設計するためには、文献レビューは不可避です。文献検索などによって収集した論文について、どういった視点からどんな情報を読みとっていくべきなのかについてまとめてください。また、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証するための対象の選定について、適格条件（組み入れ／除外基準）について検討してください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される望ましい内容について述べてください。
	参考文献	・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』クロンビー， イアン・K著，津富宏訳 金剛出版 2007年
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポート課題	理学療法学研究における relevance（関連性）
	レポート作成のポイント	一般的に研究は、得られた成果が何らかの事象に貢献する事が必要であり、理学療法学の発展や対象者の利益につながる必要があります。そこで、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証した場合にどのような利益（臨床的な意義や学術的な意義）がもたらされることになるのかまとめてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される内容について述べてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年 ・『理学療法 NAVI 臨床研究 first stage』 網本和・高倉保幸編 医学書院 2017年
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポート課題	理学療法学研究において必要となる基本的な統計手法の整理
	レポート作成のポイント	測定によって得られたデータは、そのままの状態ではデータでしかありません。何らかの事象を証明するためには統計処理が不可欠であり、研究目的やデータの種類の即し適切な手法を選択し実証しなければなりません。ここでは、代表的な統計手法である「差の検定（群間比較，前後比較，変化パターンの比較）」ならびに「相関分析」について種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け、適用する研究の具体例についてまとめて下さい。またデータの種類（尺度）とパラメトリック検定・ノンパラメトリック検定との関係について考察してください。
	参考文献	・『医療系研究論文の読み方・まとめ方——論文のPECOから正しい統計的判断まで』 対馬栄輝著 東京図書 2010年
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	理学療法学研究法	担当教員	香川 幸次郎	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	理学療法学分野の研究で求められる「リサーチマインド・アンド・メソッド」について					
使用するテキスト	<p>・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年</p> <p>・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著，津富宏訳 金剛出版 2007年</p> <p>・『あなたもできるデータの処理と解析』 岩淵千明（編著） 福村出版 1997年</p>					
講義概要・一般目標	<p>臨床の科学である理学療法は，人間を身体的，精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え，治療し，支援していくものである。それ故，「理学療法学」の学術的発展と，科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには，臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い，科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。</p> <p>理学療法学研究法は，保健科学研究法に引き続き，本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する必修科目として設定し，理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。具体的には，理学療法における実践能力の向上をめざすとともに，修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め，研究デザインの設計，症例研究法，測定・評価法，介入方法論，研究成果を公表する方法等について習得することを目標とする。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつける視点，およびその問題と疑問の解決方法を理学療法的でかつ具体的に説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	事前：研究方法や具体的な研究の進め方を学習する。事後：自己の研究手順のイメージ化を図れるようにする。フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	別途指示					

課題内容

第 1 回	レポート課題	理学療法学研究における文献レビューと対象の選定
	レポート作成のポイント	研究デザインを設計するためには、文献レビューは不可避です。文献検索などによって収集した論文について、どういった視点からどんな情報を読みとっていくべきなのかについてまとめてください。また、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証するための対象の選定について、適格条件（組み入れ／除外基準）について検討してください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される望ましい内容について述べてください。
	参考文献	・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著， 津富宏訳 金剛出版 2007年
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポート課題	理学療法学研究における relevance（関連性）
	レポート作成のポイント	一般的に研究は、得られた成果が何らかの事象に貢献する事が必要であり、理学療法学の発展や対象者の利益につながる必要があります。そこで、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証した場合にどのような利益（臨床的な意義や学術的な意義）がもたらされることになるのかまとめてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される内容について述べてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年 ・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子， 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポート課題	理学療法学研究において必要となる基本的な統計手法の整理
	レポート作成のポイント	測定によって得られたデータは、そのままの状態ではデータでしかありません。何らかの事象を証明するためには統計処理が不可欠であり、研究目的やデータの種類の即し適切な手法を選択し実証しなければなりません。ここでは、代表的な統計手法である「差の検定（群間比較，前後比較，変化パターンの比較）」ならびに「相関分析」について種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け，適用する研究の具体例についてまとめて下さい。またデータの種類（尺度）とパラメトリック検定・ノンパラメトリック検定との関係について考察してください。
	参考文献	・『あなたもできるデータの処理と解析』岩淵千明（編著）福村出版 1997年
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	理学療法学研究法演習	担当教員	齋藤 圭介 原田 和宏 香川 幸次郎	開講年次	授業形態	単位数
				1年	S科目	2単位
テ ー マ	この講義は、理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	臨床の科学である理学療法は、人間を身体的、精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え、治療し、支援していくものである。それ故、「理学療法学」の学術的発展と、科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには、臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い、科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。本演習では、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を修得する。					
到達目標	理学療法における実践能力の向上をめざすとともに、修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め、研究デザインの設計、症例研究法、測定・評価法、介入方法論、研究成果を公表する方法等について習得を目標とする。					
評価方法	スクーリングの際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>「スクーリングまでの事前学修事項」</p> <p>研究計画案の発表用のスライドと事前配布資料を準備しましょう。事前配付資料の内容は別途連絡をいたします。入学後から夏期スクーリングまでに作業してきたことを振り返り、スムーズに取り組めたこと、難しかったこと、時間がかかったこと、全く手が付けられなかったことを整理しましょう。</p> <p>「スクーリング終了後の学修事項」</p> <p>3日間のスクーリングの内容を基に、秋期スクーリングまでの作業の内容と優先順位を考えて取り組んでいきます。</p> <p>スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。</p>					
教 員 メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp（齋藤）， k_harada@kiui.ac.jp（原田）， 別途指示（香川）					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインド入門編（香川）
2. 研究計画の発表（齋藤・原田）
3. 研究計画への質疑応答（齋藤・原田）
4. 研究デザインの修正（齋藤・原田）
5. 修論中間発表会の聴講（齋藤・原田）
6. 修論中間発表内容への質疑（齋藤・原田）
7. 理学療法学研究の基礎（齋藤）
8. 研究結果の信憑性（原田）
9. 測定・関連と因果（齋藤）
10. 文献レビュー法（原田）
11. 統計解析の考え方（齋藤）
12. 研究モデル考え方，倫理事項（原田）
13. リサーチマインド① 研究計画の課題の発表（香川・齋藤・原田）
14. リサーチマインド② 研究計画の課題解決のための議論（香川・齋藤・原田）
15. リサーチマインド③ 研究計画の課題解決法の考え方（香川・齋藤・原田）

科目名	基礎保健科学特論	担当教員	森 芳史 中 嶋 正 明 井 上 茂 樹	開講年次	授業形態	単位数
				1・2	T科目	4単位
テ ー マ	分子生物学的、細胞組織学および生理機能学的な視点からみた生体の機能の制御について					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『基礎分子生物学 第4版』田村隆明・村松正實 著 東京化学同人 2007年 ・『ジュンケイラ 組織学 第5版』坂井建雄他(監訳) 丸善 2018年 ・『生体電気信号とはなにか』杉晴夫著 ブルーバックス 2006年 ・『筋肉はふしぎ』杉晴夫著 ブルーバックス 2003年 					
講義概要・一般目標	<p>日々の臨床で遭遇する障害のメカニズムをより深く掘り下げて探求していこうとすると必ずそこには基礎医学の知識と技術が必要となる。基礎医学は決して、理学療法と無関係ではなく、基礎医学が臨床医学をはじめ理学療法などの医療科学を支え、また、日々の医療が基礎医学を発展させている。本特論では細胞や分子のレベルから機能障害レベルにおけるさまざまな問題点を検索し障害構造の理解を深めることが重要である。本講義では次の3つの各論から構成される。</p> <p>オムニバス方式 分子生物学(井上茂樹) 生命プログラムの青写真である遺伝子の構造から、遺伝子の発現、即ち、RNAの合成のメカニズムについて教授する。さらに、DNAの遺伝情報に従って合成される蛋白質が実際に機能を発現するまでの各段階について分子レベルで解説し、理解を深める。〈第1回レポート課題〉</p> <p>細胞組織学(中嶋正明) 日々の臨床で直面している筋萎縮、関節拘縮などのメカニズムについて皮膚、筋、骨、関節、神経、血管といった組織レベルから理解を深め、その病態の組織学的特徴を修得する。〈第2回レポート課題〉</p> <p>生理機能学(森芳史) 関節軟骨の発生、正常な機能、及び病理について、分子レベル・細胞レベルから理解する。臨床上の疑問を分子生物学的な視点に還元して捉え、文献検索によって現在までに明らかになっていること、不明なことを把握する。その上で、疑問を解決するための研究計画を立案できるようにする。〈第3回レポート課題〉</p>					
到達目標	問題解決能力の基礎となる医学的、リハビリテーション科学的知識や、対象となる人々の問題を具体的に解決していくための運動機能障害や生活機能障害に関する基礎知識を身につけ、病態の説明や臨床治療への適応実施を自ら考えることができる。					
評価方法	科目修了試験は口頭試問により到達目標が達成できているかどうかにより評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が提示する資料、指定したテキスト、参考図書、参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから、スクーリングにおける解説・指導を行います。(井上) ・褥瘡や廃用性症候群を組織学的な知見より捉え、患者に起こる臨床症状を踏まえながら現象を理解することが大切。また課題では当該事項について記載されている成書(参考書等)や先行研究論文の情報を収集、分類、まとめを行ったものをレポートに記載すること。また、情報や他者の意見・見解の羅列だけを行うことなく、課題に対する自分の見解・意見を入れることが大切。(中嶋) ・指定されたレポート課題についてテキストや資料を参考にしてレポートを作成し、提出前に必ず担当教員に指導を受けて下さい。(森) <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	s_inoue@kiui.ac.jp (第1回/井上), apollo@kiui.ac.jp (第2回/中嶋), ymori@kiui.ac.jp (第3回/森)					

課題内容

第1回	レポート課題	遺伝子の構造と機能について考える。
	レポート作成のポイント	まずは生命プログラムの青写真である遺伝子の構造と染色体の基本構造について調べて下さい。次に遺伝情報の維持と生物進化に関係の深い遺伝子の複製とDNA修復それに遺伝子組み換えについて考えて下さい。さらに遺伝子が生命現象として発現するメカニズムである遺伝子の転写とスプライシングそれに蛋白質の生合成について考え、合わせて疾患の原因、機能回復の分子メカニズムについても考察して下さい。
	参考文献	・THE CELL, Alberts et al, Garland Science, 2015
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第2回	レポート課題	褥創，廃用性筋萎縮および関節拘縮につての組織学的変化と病態による特徴を考察しなさい。
	レポート作成のポイント	日々の臨床で直面している褥創，廃用性筋萎縮，あるいは関節拘縮のメカニズムについて皮膚，筋，骨，関節，神経，血管といった組織学的な変化と特徴を臨床症状と関連付けて考える。
	参考文献	・特に指定しないので，テキストを含めて各自で参考資料を検索（登校による文献検索も可能）。
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第3回	レポート課題	関節軟骨の発生・維持機構について概説しなさい。
	レポート作成のポイント	Review 論文や教科書で、まずは概要を把握してください。その上で、PubMedで最新の論文や重要な論文をしらべ、特に興味のある分子メカニズムや細胞機能（例えば、関節軟骨の組織幹細胞について、Superficial zoneの機能について、あるいは関節軟骨から軟骨下骨への移行の詳細について、など）について、詳細に記載してください。
	参考文献	・特に指定しないので，テキストを含めて各自で参考資料を検索（登校による文献検索も可能）。
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	臨床保健科学特論	担当教員	高橋 淳	開講年次	授業形態	単位数
			森 芳史 中嶋 正明 横井 輝夫			
テーマ	多様な疾患の病態生理を学び、障害の多様性についての理解を深める。					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『なるほどなっとく！内科学 第2版』 浅野嘉延 (編集) 南山堂 2020年 『痛み学 臨床のためのテキスト』 ジェニー・ストロング 編, 熊澤孝朗 監訳 名古屋大学出版会 2012 『ボウルビィ 母子関係入門』 ジョン・ボウルビィ 著, 作田 勉 監訳 星和書店 1981年 					
講義概要・一般目標	<p>臨床保健学は年齢を問わず、子どもから高齢者まで、全ての人に共通して求められるものである。本特論では治療医学の視点に止まらず、リハビリテーション医学の視点からも人間の障害の多様性について理解を深めることを目的に以下の3つの各論から構成される。</p> <p>オムニバス方式</p> <p>内科学 (高橋 淳) 内科学全般の臨床保健領域における代表的疾患につき、その病態生理、最新の診断法、そして、治療法の理論についての理解を深める。(第1回レポート課題)</p> <p>整形外科・スポーツ医学 (森 芳史・中嶋正明) 整形外科・スポーツ医学において痛みは深刻な問題であり、その病態生理、特に心理的側面や運動連鎖破綻の影響、最新の診断・評価方法、治療法の知識を深めることにより、運動器疾患全体に共通する問題点である『痛み』について適切に対応できる力を習得する。(第2回レポート課題)</p> <p>小児神経発達学 (横井輝夫) 愛着形成は、障害の有無にかかわらず、神経系や内分泌系、免疫系に作用し、子どもの心身の健全な発達に重要です。愛着理論の理解を深めることにより、障害をもつ児と母との相互関係について考える力を修得できる。(第3回レポート課題)</p>					
到達目標	内科疾患の病態、痛み、小児の発達特性について、論理的に記述できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。 試験は提出されたレポートに関する口頭試問にて行い、到達目標の達成度に応じて評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。Eメールでの問い合わせや相談は随時行ないます。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 指定のテキストと参考文献を熟読し、その中からレポートの課題に関する内容を選別し、1. 表題 (所属, 学籍, 氏名, 担当教員名などを含む) 2. 病態, 3. 考察, 4. まとめ, 5. 引用 (参考) 文献 (ページも含む) の順に記載していく。なお、本文では引用、参考箇所を明確にしておくこと。(高橋) 参考資料を読み与えられた課題を達成する過程を通して、自分自身で考え、それをまとめる力をつける。そして、その事柄について討論が出来るようにすること。(森・中嶋) 健全なパーソナリティの発達に対する愛着形成の重要性を読み解く視点から熟読して下さい。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。(横井) 					
教員メールアドレス	atakah7@kiui.ac.jp (第1回/高橋 淳) ymori@kiui.ac.jp (第2回/森 芳史), apollo@kiui.ac.jp (第2回/中嶋正明) joy_yokoi@yahoo.co.jp (第3回/横井輝夫)					

課題内容

第 1 回	レポート課題	大腸癌，過敏性腸症候群，アルコール性肝障害，肝細胞癌，糖尿病，甲状腺機能低下症，肺癌，肺炎，気管支喘息のうちから2つの疾患を選び，それらが日常生活に及ぼす影響を考察せよ。
	レポート作成のポイント	慢性疾患の病態を簡潔にまとめ，日常生活への影響を考察し，自らが将来患者さん達にどのように貢献できるか想定して記載する。(4000字程度)
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『病気がみえる vol.1 消化器(第5版)』 医療情報科学研究所(編集)メディックメディア 2016年 ・『病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌(第4版)』 医療情報科学研究所(編集)メディックメディア 2014年 ・『病気がみえる vol.4 呼吸器(第2版)』 医療情報科学研究所(編集)メディックメディア 2013年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポート課題	運動器慢性痛の病態(最も興味のある運動器疾患について)
	レポート作成のポイント	心理的問題，運動器の廃用，アライメント異常，運動連鎖，神経系機能変化などについて考察
	参考文献	運動器慢性痛診療の手引き(日本整形外科学会運動器疼痛対策委員会) 『痛み学-臨床のためのテキスト』 熊澤孝明 監訳 名古屋大学出版会
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポート課題	健全なパーソナリティの発達と愛着との関係について論述して下さい。(2000字程度)
	レポート作成のポイント	親と子どもの立場に相互に立ちながらテキストを熟読し，論じて下さい。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『ボウルビィ 母と子のアタッチメント 心の安全基地』ジョン・ボウルビィ 著 二木 武 監訳 医歯薬出版 1993 ・初塚真喜子『アタッチメント(愛着)理論から考える保育所保育のあり方』相愛大学人間発達学研究 2010年、pp. 1-16.
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	地域保健科学特論	担当教員	河村 顕治 佐藤 三矢 森下 元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1・2	T科目	4単位
テーマ	リハビリテーション科学の視点からのQOLとヘルスプロモーション					
使用するテキスト	・『リハビリテーション医療の評価 QOLを高める科学性の追究』 マーカス・J. フーラー／編集 加倉井周一, 清水 和彦／訳 医学書院 2003年					
講義概要・ 一般目標	<p>地域リハビリテーションは、健常者や障害者、あるいは高齢者およびその家族がみ慣れたところで、そこに住む人々とともに、いきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉および生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織が協力し合って行う活動のすべてを指す。本特論では、リハビリテーション科学と理学療法学の視点から、地域保健科学について理解を深めることを目的に以下の3つの各論から構成される（オムニバス方式）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション科学（河村顕治） リハビリテーションの基本理念が「全人間的復権」とされることから、障害を有する者の生活を考えた場合、ただ単に障害者だけに目を向けたのでは不十分であり、障害者が社会の中で生活できるようにしていくこと、即ち、他の人間との共生を実現していくことが不可欠となる。そのため、障害者だけでなく、障害者を取り巻く周囲の環境要因を含めた包括的な支援体制について理解を深める。（第1回レポート課題） 2. QOL科学（佐藤三矢） 近年の保健科学研究において関心事である生活の質（Quality of life; QOL）について、評価、規定要因の解明、その因果モデルの構築、および研究方法論等について考える。ここでは特に、「人々が疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送るということ」について、「QOL向上のための科学的な支援の方法論と適切な効果判定」について理解を深める。（第2回レポート課題） 3. ヘルスプロモーション（森下元賀） 世界に類を見ないスピードで超高齢化社会が進展している本邦において、国民一人一人が自らの健康をコントロールしながら維持改善に努め、高いQOLを維持することは重要である。ここでは特に、疾患に対するリハビリテーションだけではなく予防医学にも焦点を当て、「介護予防事業の現状と課題、適切な効果判定」について理解を深める。（第3回レポート課題） 					
到達目標	理学療法や研究における対象者の「QOL: Quality of life」向上への寄与について深く考える機会を通じ、対象者における全人間的なヘルスプロモーションに視座した思考を行うことが出来るようになる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。講義概要とレポート課題の番号が同一の教員の担当です。					
学修の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・指定されたレポート課題についてテキストや資料を参考にしてレポートを作成し、提出前に必ず担当教員に指導を受けて下さい。（河村） ・ご自分の「研究テーマにおける対象者」の疾患や特性（属性）などに着目し、その対象者におけるQOLについてレポート作成を行ってください。レポート作成時には、その対象者における（その対象者ならではの）「QOLの傾向」や「QOL評価方法」、「QOLを向上させるための戦略や戦術」などにフォーカスして論述することを推奨致します。（佐藤） ・地域包括ケアの制度の運用が開始され、これからの理学療法士は地域で活動することが必須になってきています。地域での保健医療をとりまく環境や実践例に関して、自分なりに調べ、自身がどのように活動するべきかの考えを整理してください。（森下） <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員 メールアドレス	kawamura@kiui.ac.jp（第1回／河村）， sato38@kiui.ac.jp（第2回／佐藤）， m_mori@kiui.ac.jp（第3回／森下）					

課題内容

第1回	レポート課題	障害者が地域社会の中で生活できるようにしていくこと、即ち、他の人間との共生を実現していくにはどのような方策があるのかを考察してください。
	レポート作成のポイント	「全人間的復権」という言葉の意味を十分に鑑み、障害者をとりまく環境要因を含めた包括的な支援体制について、実例をふまえながら問題点や課題点を考察してください。
	参考文献	・『リハビリテーション医療の評価 QOL を高める科学性の追究』 マ-加・J. フ-ー／編集 加倉井周一、清水 和彦／訳 医学書院 2003 年
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第2回	レポート課題	地域社会で生活する障害者の QOL を高めるための基本的な戦略と戦術について考察してください。
	レポート作成のポイント	地域在住の人々（障害者・健常者・高齢者など）において、QOL を高めるための実践例や QOL 評価尺度について、先行研究もふくめて考察してください。なお、テーマとなる疾患については、教員と相談して決定してください。
	参考文献	・『リハビリテーション医療の評価 QOL を高める科学性の追究』 マ-加・J. フ-ー／編集 加倉井周一、清水 和彦／訳 医学書院 2003 年 ・配布資料
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第3回	レポート課題	地域社会における行政、施設の介護予防事業の現状と課題、効果判定について考察してください。
	レポート作成のポイント	日本における実例および地域格差に関しても調べ、それぞれ比較しながら介護予防事業の現状と課題、適切な効果判定、望ましい介護予防事業の方法を考察してください。
	参考文献	・『完全版 介護予防マニュアル』 大淵修一 監修 法研 2015 年 ・配布資料
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	河村 顕治	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	Closed Kinetic Chain のバイオメカニクス					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年 ・『新ボディダイナミクス入門 立ち上がりと歩行の分析』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2018年 ・『二関節筋の協調制御理論』熊本水頼 医学書院 2021年 					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。併せて，2) ボディダイナミクスを統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に Closed Kinetic Chain の特性に焦点をあて，3次元動作分析や動作筋電図のデータをふまえて研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>					
到達目標	Closed Kinetic Chain運動の最も基本となる歩行の計測法について一般的な方法論を理解し，CKC運動の特性を理解し，基本的動作の立ち上がり動作について特に二関節筋の特性に着目して論述することができる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	指定されたレポート課題についてテキストや資料を参考にしてレポートを作成し，提出前に必ず担当教員に指導を受けて下さい。 フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	kawamura@kiui.ac.jp					

課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	歩行計測の方法論について
	レポート作成のポイント	人におけるCKC運動の最も基本となるのは歩行です。実際に3次元動作解析を行わないとしても、参考文献として動作解析の論文を読みこなすためには歩行計測の方法論が理解できていなければなりません。そこで、歩行計測の方法論について、下記参考文献を利用しながらまとめてください。
	参考文献	・『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポート課題	Closed Kinetic Chainについて
	レポート作成のポイント	Closed Kinetic Chain(以下CKC)については前十字靭帯術後リハビリテーションにおいて再建靭帯にかかる負荷がOpen Kinetic Chainよりも少ないと言うことに注目が集まっていますが、二関節筋が抑制されたり、関節軟骨に適度な刺激が加わることなどは意外と知られていません。CKCの特性について、自ら収集した参考文献を利用しながらまとめてください。
	参考文献	適宜、資料を配布する。
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポート課題	立ち上がり動作のボディダイナミクス
	レポート作成のポイント	下記の参考文献を中心に立ち上がり動作のボディダイナミクスについて考察を行って下さい。さらに、CKC動作の特性について考察し、その臨床応用についてまとめてください。
	参考文献	・『新ボディダイナミクス入門 立ち上がりと歩行の分析』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2018年 ・『二関節筋の協調制御理論』熊本水頼 医学書院 2021年
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	河 村 颯 治	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	Closed Kinetic Chain のバイオメカニクス					
使 用 する テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年 ・『新ボディダイナミクス入門 立ち上がりと歩行の分析』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2018年 ・『二関節筋の協調制御理論』熊本水頼 医学書院 2021年 					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。併せて，2) ボディダイナミクスを統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に Closed Kinetic Chain の特性に焦点をあて，3次元動作分析や動作筋電図のデータをふまえて研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>					
到 達 目 標	<p>Closed Kinetic Chain運動の最も基本となる歩行動作の筋張力について理解し，CKC運動における二関節筋が果たす役割について考察し，単関節筋と二関節筋の協調について論述することができる。</p>					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>指定されたレポート課題についてテキストや資料を参考にしてレポートを作成し，提出前に必ず担当教員に指導を受けて下さい。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メー ル ア ド レ ス	kawamura@kiui.ac.jp					

課題内容(2年次)

第4回	レポート課題	歩行のボディダイナミクス
	レポート作成のポイント	下記の参考文献を中心に歩行のボディダイナミクスについて考察を行って下さい。さらに、CKC動作の特性について考察し、その臨床応用についてまとめてください。
	参考文献	・『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年 ・『新ボディダイナミクス入門 立ち上がりと歩行の分析』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2018年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第5回	レポート課題	CKC運動における二関節筋の作用
	レポート作成のポイント	CKC運動においては二関節筋が特異な働きをすることが分かっています。パワートランスファーとしての作用や外乱に対しての四肢末端の安定化作用などです。CKC運動における二関節筋が果たす役割について、下記参考文献及び教員から配布される資料を利用しながらまとめてください。
	参考文献	・『二関節筋の協調制御理論』熊本水頼 医学書院 2021年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第6回	レポート課題	CKC運動における単関節筋と二関節筋の協調について
	レポート作成のポイント	CKC運動を考察する場合に、筋収縮と出力との関係を理解していると様々な応用が可能となります。下肢の股関節屈筋・伸筋、膝関節屈筋・伸筋のペア、股関節と膝関節にまたがる二関節筋のペアの合計3つのペアについて筋収縮と出力の関係を下記参考文献及び教員から配布される資料を利用しながらまとめてください。
	参考文献	・『二関節筋の協調制御理論』熊本水頼 医学書院 2021年
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	森 芳 史	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	運動機能障害に対する定量的評価と科学的介入方法の確立をめざして					
使用する テキスト	・配布資料					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷により身体に障害を負った方に対する理学療法においては，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地より研究を進めていく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を修得する。併せて，2) 研究データの結果を統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法を考案する。</p> <p>以上の研究・学修を踏まえ，本講では特に関節障害に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深め研究者としての考え方，技能を修得する。</p>					
到達目標	運動機能障害に対する現在の理学療法の問題点とその改良点を説明でき，その研究疑問を解き明かすための具体的な研究法を提示できる。また，その研究法に必要な評価法の科学的信頼性・妥当性を説明することができる。さらに，研究を進めるにあたって倫理的配慮をすることができる。					
評価方法	科目修了試験により評価。 試験は提出されたレポートに関する口頭試問にて行い，到達目標の達成度に応じて評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>研究を進めるにあたって最も重要なのは研究計画である。研究計画が出来上がればこの研究は半ば過ぎと言え，研究計画がいい加減では信頼の置ける結果が得られるはずもない。従って，研究疑問を解くためにどのような計画書にするのか，参考文献に従って，こつこつと地道に，あらゆる事を考えながら，多くの文献を読み，作り上げることが重要であり，メールでやりとりしながら，時には直接話をしながら進めていきたいと思えます。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	ymori@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (1年次)

第 1 回	レポ ー ト 課 題	研究デザインについて
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	科学的研究において、最も重要な最初のステップは研究テーマを決め、綿密な研究計画を立てることです。そこで、あなたの現在考えている研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べて下さい。
	参 考 文 献	『医学的研究デザイン 第4版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年 『医学的介入の研究デザインと統計:ランダム化/非ランダム化研究から傾向スコア、操作変数法まで』-木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2013年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポ ー ト 課 題	あなたの研究テーマに即した評価方法について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	あなたの研究テーマに即した評価方法を挙げ、その計測法と精度、信頼性、その意義についてまとめてください。
	参 考 文 献	・PubMedなどを活用して、抽出した論文
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポ ー ト 課 題	第1, 2回レポート課題により形作られた研究テーマをもとに研究計画を作成
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	あなたの選んだ研究テーマ、そしてその評価方法について、内外の文献を参考とし、研究の問題点、新規性、臨床面における意義を述べ、改良点があればそれについても考察し、研究計画書を作成して下さい。
	参 考 文 献	・PubMedなどを活用して、抽出した論文
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日(土)
レポ ー ト 提 出 方 法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	森 芳 史	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	運動機能障害に対する定量的評価と科学的介入方法の確立をめざして					
使用するテキスト	・配布資料					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷により身体に障害を負った方に対する理学療法においては，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地より研究を進めていく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を修得する。併せて，2) 研究データの結果を統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法を考案する。</p> <p>以上の研究・学修を踏まえ，本講では特に関節障害に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深め研究者としての考え方，技能を修得する。</p>					
到達目標	1年次に立てた研究計画にしたがいデータを収集するとともに，データの統計的処理が具体的にできるようにする。また，その結果について先行研究を基に考察できるようにする。					
評価方法	科目修了試験により評価。 試験は提出されたレポートに関する口頭試問にて行い，到達目標の達成度に依じて評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>研究を進めるにあたって最も重要なのは研究計画である。研究計画が出来上がればこの研究は半ば過ぎと言え，研究計画がいい加減では信頼の置ける結果が得られるはずもない。従って，研究疑問を解くためにどのような計画書にするのか，参考文献に従って，こつこつと地道に，あらゆる事を考えながら，多くの文献を読み，作り上げることが重要であり，メールでやりとりしながら，時には直接話をしながら進めていきたいとお思います。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	ymori@kiui.ac.jp					

課題内容(2年次)

第 4 回	レポート課題	課題3においてできあがった研究計画書により収集されたデータの処理
	レポート作成のポイント	配付資料や参考文献を基に、データを処理し、方法と結果を報告して下さい。
	参考文献	・PubMedなどを活用して、抽出した論文
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 5 回	レポート課題	課題4で得られた結果を基に『考察』としてまとめて下さい。
	レポート作成のポイント	あなたの研究テーマに関連した内外の論文を参考にしながら、解剖、生理、疾患の病態、計測方法の特徴を考慮しつつ課題4にて得られた結果を考察して下さい。
	参考文献	・PubMedなどを活用して、抽出した論文
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 6 回	レポート課題	これまでの課題の集大成としてあなたの研究論文の『序論』を作成して下さい。
	レポート作成のポイント	参考文献、配付資料をもとにこれまでの課題の集大成として研究を総括し『序論』としてまとめて下さい。
	参考文献	・PubMedなどを活用して、抽出した論文
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	井 上 茂 樹	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	運動器疾患に対する物理療法の再考					
使用する テキスト	・『計測法入門 計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷により身体に障害を負った方に対する理学療法においては，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地より研究を進めていく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。併せて，2) 模擬データの結果を統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に運動器疾患に対する物理療法に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進め，基本的な研究方法論を説明できるようになる。</p>					
到達目標	院生の身近な事象と関連付けながら運動機能の基本的な研究方法論について理解し，今後の研究や実践に生かす。					
評価方法	科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>教員が提示する資料，指定したテキスト，参考図書、参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから，スクーリングにおける解説・指導を行います。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	s_inoue@kiui.ac.jp					

課題内容(1年次)

第1回	レポート課題	生体现象を計測する意味について
	レポート作成のポイント	計測とは「特定の目的を持って、物事を量的に捉えるための手法・手段を考察し、実施し、その結果を用いて所期の目的を達成させること」である。そこで生体现象を計測する真の意味をより深く理解するため、まず、臨床現場で実施する計測①目的、②生体計測の難しさ、③生体計測を実施するための臨床的思考過程について、下記参考文献を利用しながらまとめてください。
	参考文献	『計測法入門 計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第2回	レポート課題	運動器疾患に対する物理療法の現状と課題について
	レポート作成のポイント	物理療法は、主に運動器疾患の羅漢部位に外部からの物理的エネルギーを加えることで治療を行うものである。運動器疾患に対する物理療法は、臨床で広く用いられていることから有効性を科学的に探究することは重要である。そこで、運動器疾患に対する物理療法の現状と課題についてまとめてください。 ※データベース医学中央雑誌, MEDLINE, PubMed, PEDroなどを活用してください。
	参考文献	参考文献は各自で検索・入手のこと(本学登校での検索も可能)
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第3回	レポート課題	運動器疾患に対する物理療法の治療効果の検証について
	レポート作成のポイント	運動器疾患に対する物理療法の効果をあげるためには、薬物療法と同様にその適用、禁忌、副作用を把握したうえで、適用量(時間、頻度、強度)、適用法を確立しなければならない。介入手段(物理的エネルギー)は限定して運動器疾患に対する物理療法の治療効果について文献考察を行ってください。 ※データベース医学中央雑誌, MEDLINE, PubMed, PEDroなどを活用してください。
	参考文献	参考文献は各自で検索・入手のこと(本学登校での検索も可能)
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	井 上 茂 樹	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	運動器疾患に対する物理療法の再考					
使用 する テ キ ス ト	・適宜資料を配付する。					
講義概要・ 一 般 目 標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷により身体に障害を負った方に対する理学療法においては，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地より研究を進めていく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。併せて，2) 模擬データの結果を統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に運動器疾患に対する物理療法に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
到 達 目 標	自らが立案した研究テーマに基づいた研究計画にしたがい，結果の解釈をもとに考察をまとめることで論理的な思考能力を身につける。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価する。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	教員が提示する資料，指定したテキスト，参考図書，参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから，スクーリングにおける解説・指導を行います。					
教 員 メ ー ル ア ド レ ス	s_inoue@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (2年次)

第 4 回	レポ ー ト 課 題	研究計画書に基づいた方法・結果を整理しデータ分析する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	研究計画書の方法全体の精度，再現性，妥当性を確認したうえでの，得られたデータを整理して，傾向の有無，差の有無，変化の有無，関係の有無，程度，定量的・定性的な結果の吟味，統計学的な意味を配付資料や参考文献をもとにデータを処理し，方法と結果をまとめてください。
	参 考 文 献	・配付資料
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	結果の解釈をもとに考察をまとめる。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	参考文献をもとに得られた結果から考察をまとめてください。考察をまとめるうえでは，研究で得られたデータに沿う，得られたデータと関係のない考察をしていないか，自身の主張と類似研究との区別について構成を練る必要がある。
	参 考 文 献	・配付資料
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	諸言を作成する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	自身の研究目的，意図するもの，ねらいをまとめ，文献レビュー，配布資料，参考資料をもとに，これまで得られた結果および考察を踏まえて諸言を作成する。
	参 考 文 献	・配付資料
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	中嶋 正明	開講年次	1～2	授業形態	T科目	単位数	8単位
	テーマ		基礎医学から運動器疾患に対する保存的療法を再考する						
使用するテキスト	・適宜資料を配付する。								
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。</p> <p>本講では，特に細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患の理解を深め，症状および障害に対する保存的療法を再考し，その作用機序を説明できる力を習得する。</p>								
到達目標	関節軟骨のホメオスタシスについて説明できる。								
評価方法	変形性関節症における関節軟骨の変性について説明できる。								
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。また，スクーリング講義時間外に適宜対応します。								
学修の進め方	<p>参考資料を読み与えられた課題を達成する過程を通して，自分自身で考え，それをまとめる力をつける。そして，その事柄について討論が出来るようにすること。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>								
教員メールアドレス	apollo@kiui.ac.jp								

課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	関節軟骨の解剖とホメオスタシスについて
	レポート作成のポイント	関節軟骨の構造と軟骨細胞の新陳代謝について調べる。軟骨細胞はどのような経路を介して新陳代謝を行っているか。関節軟骨の新陳代謝を良好に保つためにはどうすればよいか。
	参考文献	・『骨と軟骨のバイオロジー』藤井克之・井上一（編集） 金原出版 2002年 （絶版になっているが、本学図書館に蔵書あり）
	レポート提出期限	令和4年6月30日（木）
第 2 回	レポート課題	変形性関節症における関節軟骨の変性と破壊について
	レポート作成のポイント	変形性関節症において関節軟骨にどのような変性と破壊が起きているか。
	参考文献	・『骨と軟骨のバイオロジー』藤井克之・井上一編集 金原出版 2002年 （絶版になっているが、本学図書館に蔵書あり）
	レポート提出期限	令和4年9月30日（金）
第 3 回	レポート課題	関節軟骨と力学的ストレス
	レポート作成のポイント	関節軟骨に対する力学的ストレスは軟骨細胞の新陳代謝を促進する。しかし、条件によっては有害にも働く。変形性関節症において関節軟骨に対してどのような力学的ストレスを避け、どのような力学的ストレスを負荷すれば良いのか。
	参考文献	・『関節軟骨とストレス』久保秀一・高橋謙治 理学療法 16巻4号 p298-301
	レポート提出期限	令和4年12月10日（土）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	中 嶋 正 明	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	基礎医学から運動器疾患に対する保存的療法を再考する					
使用 する テ キ ス ト	・適宜資料を配付する。					
講義概要・ 一 般 目 標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。</p> <p>本講では，特に細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患の考察を深め，症状および障害に対する保存的療法を再考し，その作用機序を説明できる力を習得する。</p>					
到 達 目 標	<p>変形性関節症における疼痛について説明できる。</p> <p>変形性関節症における関節拘縮の病態と発生機序を説明できる。</p> <p>変形性関節症に対する効果的な保存療法について基礎医学的見地から説明できる。</p>					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>参考資料を読み与えられた課題を達成する過程を通して，自分自身で考え，それをまとめる力をつける。そして，その事柄について討論が出来るようにすること。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メ ー ル ア ド レ ス	apollo@kiui.ac.jp					

課題内容(2年次)

第 4 回	レポート課題	変形性関節症における疼痛について
	レポート作成のポイント	変形性関節症に対する理学療法の主目的として疼痛の軽減が挙げられる。この疼痛の発生機序はどのようにかんがえられているのか、そしてこの疼痛に対してどのような理学療法が推奨されているのかについて調べて下さい。
	参考文献	適宜, 資料を配付する。
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 5 回	レポート課題	変形性関節症における関節拘縮(関節可動域制限)について
	レポート作成のポイント	変形性関節症において疼痛とともに関節拘縮(関節可動域制限)の発生が大きな問題となる。関節拘縮の病態と発生機序について調べてください。
	参考文献	適宜, 資料を配付する。
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 6 回	レポート課題	変形性関節症の保存的療法について
	レポート作成のポイント	これまでの課題を通して, 変形性関節症の保存的治療を考えてみてください。
	参考文献	適宜, 資料を配付する。
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し, 教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	森下元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	脳卒中患者の歩行障害に対する有効な理学療法的アプローチの確立を目指して					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年 『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年 					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて，2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に理学療法士の立場から「歩行障害に対する有効なアプローチ」に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>					
到達目標	<p>生体现象を解明する上での研究デザインの種類を説明できる。</p> <p>量的研究を進める上での研究疑問を説明できる。</p> <p>脳卒中患者の歩行障害の量的評価方法に関して列挙できる。</p> <p>脳卒中患者の歩行障害の評価方法の信頼性について説明できる。</p> <p>脳卒中患者の歩行障害の治療方法の種類についてエビデンスレベルが高いものを説明できる。</p> <p>脳卒中患者の歩行障害の治療方法に関して客観性のある先行研究を提示することができる。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>研究をする意味から，大学院生の研究テーマに合わせた領域をとりまく現状，最新のトピックスを学んでいきます。自身の研究テーマに関わる領域に関して，常に最新の論文を読む習慣をつけておいてください。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	m_mori@kiui.ac.jp					

課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	生体現象を計測する意味について
	レポート作成のポイント	計測とは「特定の目的を持って、物事を量的にとらえるための手法・手段を考案し、実施し、その結果を用いて所定の目的を達成すること」です。そこで生体現象を計測する真の意味をより深く理解するため、まず、臨床現場で実施する計測の①目的、②生体計測の難しさ、③生体計測を実施するための臨床的思考過程について、下記参考文献を利用しながらまとめてください。
	参考文献	・『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポート課題	脳卒中患者の歩行障害を評価する手法の信頼性について
	レポート作成のポイント	脳卒中患者においては、運動学的、運動力学的因子、時間距離因子などの多くの歩行に関する問題が存在します。しかし、臨床における歩行障害の評価は理学療法士自身の主観に頼っている部分が多くあります。歩行分析の結果を量的かつ客観的に示す指標の妥当性と信頼性が求められます。そこで、あなたの研究テーマに関連した変数について、測定方法、指標・尺度を調べた上で、先行研究を踏まえて信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年 ・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポート課題	脳卒中患者の歩行障害の治療効果の検証に関して
	レポート作成のポイント	脳卒中患者の歩行練習に関しては、多くの研究で効果のあるとされる治療法が提唱されつつあります。しかし、部分荷重トレッドミル歩行やロボットを使用した歩行練習などの機械を使用した練習方法がエビデンスを構築されやすい現状にあります。そこで、あなたの関心のあるテーマに関して、どのような手法で介入結果を客観性、再現性のあるものにしていくかをまとめてください。・『脳卒中治療ガイドライン』脳卒中合同ガイドライン委員会作成 2009年 http://www.jsts.gr.jp/jss08.html ・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください
	参考文献	・『脳卒中治療ガイドライン 2015』脳卒中合同ガイドライン委員会作成 株式会社協和企画 2017年 ・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	森下元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	脳卒中患者の歩行障害に対する有効な理学療法的アプローチの確立を目指して					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年 『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年 					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて，2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に理学療法士の立場から「歩行障害に対する有効なアプローチ」に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>					
到達目標	<p>脳卒中患者の歩行障害への介入方法に関して，客観的な方法を列挙できる。</p> <p>脳卒中患者の歩行障害の治療方法の種類についてエビデンスレベルが高いものを説明できる。</p> <p>脳卒中患者の移動能力に与える因子に関して説明できる。</p> <p>理学療法によって獲得した移動機能を実用化するための工夫を説明できる。</p> <p>脳卒中患者の最近の理学療法のトピックを列挙し，今後理学療法士が担う役割について考察できる。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>研究をする意味から，大学院生の研究テーマに合わせた領域をとりまく現状，最新のトピックスを学んでいきます。自身の研究テーマに関わる領域に関して，常に最新の論文を読む習慣をつけておいてください。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	m_mori@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (2年次)

第 4 回	レポ ー ト 課 題	脳卒中患者の歩行障害への介入方法について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	脳卒中患者の歩行障害への介入に関しては、ロボットスーツや部分荷重トレッドミルなどが多く研究されていますが、設備、費用の面から実際に導入している施設はまだ少数です。そこで、あなたの職場で行いうる介入方法について、客観的な効果を得るための方法や効果判定についてまとめてください。
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・『脳卒中治療ガイドライン 2015』脳卒中合同ガイドライン委員会作成 株式会社協和企画 2017年 ・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日 (木)
第 5 回	レポ ー ト 課 題	脳卒中患者の移動能力に与える因子について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	脳卒中患者においては、運動機能の問題だけでなく、感覚障害、高次脳機能障害などによって移動能力に影響を与えることがあります。また、それらの問題により、移動能力として獲得できても実用化が難しいことがあります。そこで、移動能力に影響を与える因子についてまとめ、理学療法によって獲得した移動能力を実用化するための試みについて考察してください。
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・『脳卒中治療ガイドライン 2015』脳卒中合同ガイドライン委員会作成 株式会社協和企画 2017年 ・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日 (金)
第 6 回	レポ ー ト 課 題	脳卒中患者に対する理学療法のトピックについて
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	脳卒中患者に対しての理学療法は医療技術の進歩や脳科学、学習理論、行動分析学の視点から新たなアプローチが提唱されています。その中で、歩行障害を改善し得る方法に関して、最近のトピックを調べ、今後理学療法士はどのような役割を担っていくのかを考察してください。
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・『脳卒中治療ガイドライン 2015』脳卒中合同ガイドライン委員会作成 株式会社協和企画 2017年 ・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日 (土)
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	横山 茂樹	開講年次	1～2	授業形態	T科目	単位数	8単位
	テーマ		脊柱・胸郭障害に対する定量的評価と科学的介入方法の確立を目指して						
使用するテキスト	・『計測法入門 計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年								
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。併せて，2) 模擬データの結果を統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえて，本稿では特に脊柱・胸郭機能障害に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるために学修を進める。</p>								
到達目標	脊柱・胸郭機能に係わる骨・筋・軟部組織の構造や呼吸運動を客観的に捉える手法について文献的考察も踏まえて説明できる。さらに胸郭を含む体幹機能障害の要因や二次的障害に対する理学療法の有効性・有用性に関する検証を実施できる。								
評価方法	学習期間内の課題レポートを60%，講義終了後の科目修了試験を40%の重みづけにより評価。								
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。								
学修の進め方	テキストを中心に，定期的に内容について課題の提出とインターネットを利用した討論会を実施します。フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。								
教員メールアドレス	別途指示								

課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	生体现象を計測する意味について
	レポート作成のポイント	計測とは「特定の目的を持って、物事を量的に捉えるための手法・手段を考案し、実施し、その結果を用いて所期の目的を達成させること」です。そこで生体现象を計測する真の意味をより深く理解するため、まず、臨床現場で実施する計測の①目的、②生体計測の難しさ、③生体計測を実施するための臨床的思考過程について、下記の参考文献を中心にまとめてください。
	参考文献	・『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポート課題	脊柱・胸郭機能障害を評価する尺度の妥当性と信頼性について
	レポート作成のポイント	脊柱・胸郭機能の評価では、脊柱および胸郭のアライメントや柔軟性といった機能に關与する測定項目があります。しかし、これらの評価項目の妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに關連した変数について、測定方法や指標・尺度を調べた上で、先行研究を踏まえて信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年 ・PubMedなどを活用して、抽出した文献
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポート課題	脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法技術に関する科学的証拠
	レポート作成のポイント	脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法技術に関する効果について様々な報告がなされている。そこでこれまでの先行研究から、理学療法技術に関する生理学的作用や臨床的効果についてまとめてください。
	参考文献	・PubMedなどを活用して、抽出した文献
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		レポート〆切前(2週間を目安)に、事前提出してください。 web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	横 山 茂 樹	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	脊柱・胸郭機能障害に対する科学的介入の実証を目指して					
使 用 す る テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・内山靖・他 『計測法入門 計り方・計る意味』協同医書出版 2001年 ・福井 次矢(編集)『臨床研究マスターブック』医学書院, 2008年 					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者, ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において, 適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のため, これまでに運動機能や身体運動における基礎的知識の整理とその理解を深めてきた。今後は自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 運動機能障害に関する臨床的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 運動機能障害に対する介入方法の効果判定について具体的かつ定量的に捉える手法を学修する。 併せて, 2) 抽出されたデータを統合・解釈し, 対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上のことを踏まえて, 本稿では特に「脊柱・胸郭機能障害」を対象とした臨床的介入方法や効果判定に用いる評価指標, および効果判定に焦点をあて, 研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>					
到 達 目 標	<p>脊柱・胸郭機能に係わる骨・筋・軟部組織の機能や呼吸に寄与する能力を客観的に捉える手法について文献的考察も踏まえて学ぶ。さらに脊柱・胸郭機能障害の要因や二次的障害に対する理学療法の有効性・有用性について検証できることを目指す。</p>					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>テキストを中心に, 定期的に内容について課題の提出とインターネットを利用した討論会を実施します。 フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	別途指示					

課 題 内 容 (2年次)

第 4 回	レポ ー ト 課 題	脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法の効果判定に活用される評価尺度の計測方法とその意義について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	脊柱・胸郭機能障害に対する全般的な評価尺度の妥当性や信頼性についてこれまでの学修の中で学んできた。その中でも特に、本邦の研究と関連する評価尺度に関して、具体的な測定方法についてまとめてください。またその評価尺度をどのように解釈できるかといった持つ意義についても説明してください。
	参 考 文 献	・『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日(木)
第 5 回	レポ ー ト 課 題	脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法の臨床的な効果判定について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法の効果に関する報告が多くなされている。これらの先行研究をもとに脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法に関する臨床研究において、これまでどのような研究デザインでどのような効果が報告されているか?という点について批判的吟味も加えながら、論述してください。
	参 考 文 献	・福井 次矢(編集)『臨床研究マスターブック』医学書院, 2008年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日(金)
第 6 回	レポ ー ト 課 題	理学療法全般における本邦の研究の臨床的位置づけとその意義について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	あなたの研究テーマが、理学療法全般においてどのような位置づけにある研究であるかを説明し、理学療法の発展への寄与する点について、これまでの先行研究を踏まえながら論述してください。
	参 考 文 献	特に指定なし。
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日(土)
レポ ー ト 提 出 方 法		レポ ー ト 〆 切 前 (2 週 間 を 目 安) に、事 前 提 出 し て く だ さ い。 web 学 修 支 援 シ ス テ ム を 利 用 し、教 務 部 通 信 教 育 事 務 課 へ 提 出 す る。

科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	河村 顕治	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	本講では特に Closed Kinetic Chain の特性に焦点をあて、3次元動作分析や動作筋電図のデータをふまえて研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に二関節筋の特性や単関節筋と二関節筋の協調について学修する。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学修の進め方	講義の前には必ず予習を行い、疑問点はあらかじめEメールで指導教員に連絡をしてください。スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行いません。					
教員メールアドレス	kawamura@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	森 芳 史	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テ ー マ	この講義では、上・下肢関節障害やスポーツを中心とする筋・腱障害、筋肉疲労への評価、介入をテーマに生体现象を解明するための研究疑問の整理、研究計画の立案が出来ることを目標とする。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に医師の立場から、筋電計、画像を駆使し、運動機能障害の病態を考えた有効なアプローチに焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	1年秋期スクリーニングまでに研究疑問を整理し、『医学的研究デザイン 第4版』『医学的介入の研究デザインと統計:ランダム化/非ランダム化研究から傾向スコア、操作変数法まで』等の参考書に従い、研究計画書を作成する。その後、研究計画書に従ってプレ実験を開始し、問題点を洗い出し、研究計画書を修正する過程を繰り返しながら、実験による過誤がなくなるまで、研究手技の習熟と研究計画書の修正を行う。2年秋までには実験を終え、統計解析を始め、その結果に対し、文献を参考としながら考察を加え、修士論文を仕上げていく。その間、メールのやりとりやスクリーニング時の直接討論にて学修をすすめていく。スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行う。					
教員メールアドレス	ymori@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	井上茂樹	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この講義では、特に運動力学的分析に焦点をあて、床反力、歩行周期、動作筋電図のデータをふまえて研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に疾患別歩行周期の特性から歩行に対する有効なアプローチに焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	教員が提示する資料、指定したテキスト、参考図書、参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから、スクーリングにおける解説・指導を行います。スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行いません。					
教員メールアドレス	s_inoue@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	中嶋正明	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この講義では、運動器疾患に対する保存的療法を再考し、研究テーマの整理、立案が出来ることを目標に学修を進める。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。研究テーマを先行研究をもとにしっかりとしたストーリーで説明できる力を習得する。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察を実施できる。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。また、スクーリング講義時間外に適宜対応します。					
学修の進め方	関連する文献を読み自己学習を進める。その間、Eメールのやりとりにより討論を行いながら学修をすすめていく。 スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行なう。					
教員メールアドレス	apollo@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	森下元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この講義では、脳卒中患者の歩行障害への評価、介入をテーマに生体现象を解明するための研究疑問の整理、研究計画の立案が出来ることを目標とする。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に理学療法士の立場から歩行障害に対する有効なアプローチに焦点をあて、最新の知見を学んでいく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	研究の考え方や論文の読み方は講義の中で学びますが、それを踏まえて自身の研究に関連した先行研究をしっかりとレビューすることが何よりも大事になります。スクーリングで一から学ぶという姿勢ではなく、計画書の作成や研究結果に対する考察にあたって先行研究をきちんと調べ、自分なりに考えを持った上で講義に臨んでください。また、講義後は学んだことを速やかに反映させて、教員に連絡を取るようになしてください。スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行いません。					
教員メールアドレス	m_mori@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	横山 茂樹	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この講義では脊柱・胸郭機能障害に対する臨床的介入をテーマに生体现象を解明するための研究疑問の整理，研究計画の立案が出来ることを目標とする。					
使用するテキスト	適宜，資料を配布する。					
講義概要・一般目標	<p>運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて，個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。</p> <p>特に脊柱・胸郭機能障害に焦点をあて，脊柱および胸郭の機能障害の要因や二次的障害に対する理学療法の有効性について検証する手法を修得する。</p>					
到達目標	研究テーマに沿った研究方法論を説明できる。さらに得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈と，先行研究をもとにした考察をおこなうことができる。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言，受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	レポート課題を中心に，定期的にインターネットを利用したビデオ討論会を実施します。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行ないます。					
教員メールアドレス	別途指示					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	齋藤 圭介	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	高齢者における障害の回復や予防に向けた評価と支援方法の確立を指向した研究方法論について					
使用するテキスト	<p>・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年</p> <p>・『ヘルスアセスメントマニュアル－生活習慣病・要介護状態予防のために』 ヘルスアセスメント検討委員会・監修 厚生科学研究所 2000年</p>					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について修得する。併せて，2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について修得する。</p>					
到達目標	<p>特に高齢者の障害回復や予防に向けた「評価」「支援方法」に焦点を置いた上で，以下の目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記研究の遂行に必要な知識と学習の仕方を修得し，それを説明できる。 ・測定方法に関する基本的考え方と知識を習得し，実施へと具体化できる。 					
評価方法	科目修了試験により評価。口頭試問により学習内容の理解の深度を評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の 進め方	<p>レポート課題の出題内容は，自身の研究テーマを具体化させる上で必要な，生活機能障害に関する研究方法論を学修することをねらいにしたものである。課題の順序性は研究計画の具体化とリンクするよう設定している。</p> <p>レポート課題をまとめるにあたっての留意点として，レポート課題は，課題に即した自己学修成果をまとめる「学修成果のまとめ」，そして「自身の研究テーマとの関連」の二章で構成すること。効果的な学修の流れとして，上記の構成順に学修を進めること，参考文献に限らず他の書籍や先行研究の論文に広く目を通す姿勢が望ましい。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員 メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp					

課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	臨床疫学(clinical epidemiology)的な研究方法について
	レポート作成のポイント	理学療法分野の研究では、得られた研究結果をより信憑性の高いものとするため、疫学的な研究手法を応用しさらに証明水準の高い研究に取り組むことで、エビデンスが蓄積されています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野巨・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポート課題	高齢者の機能的状態や健康を評価する尺度の妥当性と信頼性について
	レポート作成のポイント	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに関係した変数についてその測定のための指標や尺度を調べた上で、先行研究を検索して信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野巨・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ・『あなたもできるデータの処理と解析』 岩淵千明(編著) 福村出版 1997年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポート課題	高齢者における障害の回復や予防を目的とする科学的介入を前提とした先行研究のレビュー
	レポート作成のポイント	高齢者における理学療法において、適切な評価や科学的介入を行うためには、研究の進め方として先ず集団の法則性を解明する必要があります。高齢者に対する科学的な知見に裏打ちされた理学療法支援を行うために、何が明らかにされ、これから解明していかなければならない研究課題は何かについてまとめてください。
	参考文献	・『ヘルスアセスメントマニュアル－生活習慣病・要介護状態予防のために』 ヘルスアセスメント検討委員会・監修 厚生科学研究所 2000年 ※その他必要と考える文献は各自で検索し、参考にすること。
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	齋藤 圭介	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	高齢者における障害の回復や予防に向けた評価と科学的な支援方法の確立をめざして					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『EBM医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー (著), 折笠 秀樹 (翻訳) 医学書院 2001年 ・『臨床疫学 第2版 EBM実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年 					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防, ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも, 適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け, 今後諸君が研究を進めるためには, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で, 自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル (ICF; WHO国際生活機能分類など) を援用し, 複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について, 実証的に解明していく研究方法について修得する。併せて, 2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し, その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について修得する。</p> <p>以上の学修を踏まえ, 本講では特に高齢者における障害の回復や予防に向けた「評価」と「支援方法」に焦点をあてながら, 自身の修士論文を具体化していく上で必要な知識や技術を修得する。</p>					
到達目標	<p>修士論文作成に資すると共に, 研究の具現化に必要な知識と方法論を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測定尺度の選定方法と使用する根拠を説明出来る。 ・先行研究レビューと整理の仕方のポイントを修得し, 説明できる。 ・「考察」の基本的構成を理解し, 先行研究に基づく結果の解釈と意義づけをすることができる。 					
評価方法	科目修了試験により評価。口頭試問により学習内容の理解の深度を評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の 進め方	<p>レポート課題の出題内容は, 自身の研究テーマを具体化させる上で必要な, 生活機能障害に関する研究方法論を学修することをねらいにしたものである。課題の順序性は, 研究の具体化と論文執筆上必要となる基本的知識について修得するよう設定している。</p> <p>レポート課題をまとめるにあたっての留意点として, レポート課題は, 課題に即した自己学修成果をまとめる「学修成果のまとめ」, そして「自身の研究テーマとの関連」の二章で構成すること。効果的な学修の流れとして, 上記の構成順に学修を進めること, 参考文献に限らず他の書籍や先行研究の論文に広く目を通す姿勢が望ましい。</p> <p>フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp					

課題内容(2年次)

第 4 回	レポート課題	海外で開発された測定尺度を本邦の研究で用いることについて
	レポート作成のポイント	理学療法研究を進める上で、測定すべき現象を絞り込み、その測定方法を探すと、欧米の研究論文で尺度開発がすでになされていることがほとんどであろう。 さて、あなたの研究計画で扱う概念のひとつについて、英語圏で尺度開発され、妥当性と信頼性が十分に支持されたものを見つけたとする。あなたの調査票に日本語化して載せたい、となったときに必要となる手順を説明してください。実際にあなたが使う尺度を示して説明しても良いものとします。
	参考文献	・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 □バート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 5 回	レポート課題	先行研究の整理と批判的吟味について
	レポート作成のポイント	収集した論文を読んでみると、あなたの研究関心に似た知見はすでに得られていると気づくことが多いであろう。研究テーマの適切性を裏付けるためには、研究関心を基に収集した先行研究を批判的に読み取ることが不可欠である。そこで、あなたがこれまでの研究活動で収集した論文はそれぞれ、何を発見して、同時に発見の際に何が不十分・曖昧であったり、問題点であったりするのかが、「アブストラクトテーブル」を作って論述してください。
	参考文献	・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 □バート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 6 回	レポート課題	研究論文において「考察」をどのように構成するか
	レポート作成のポイント	例えば、“高齢者の障害予防”に関する論文を想定し、その考察の書き方について調べてください。 書き方とは「考察」に係る構成要素のことであり、自由な発想を織りまぜて構わないので、しっかりと論述してください。なお、あなたの研究計画で扱う内容を例として示しても良いものとします。
	参考文献	・『EBM 医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー (著), 折笠 秀樹 (翻訳) 医学書院 2001年 ・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 □バート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	高 橋 淳	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	生活障害に対する評価や科学的な支援方法の確立をめざして					
使用 する テ キ ス ト	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年					
講義概要・ 一 般 目 標	<p>有病者や高齢者の障害予防、ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも、適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け、今後諸君が研究を進めるためには、生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で、自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本特論においては、生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため、1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し、複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について、実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて、2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し、その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ、本特論では特に「内科慢性疾患患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』、『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』、および『理学療法効果に関する良質な証拠』」を習得する。</p>					
到 達 目 標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつけることができ、解決のために研究計画を作成できる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	レポート課題をまとめるに当たっての留意点：1頁目は表紙とし、課題名、学籍番号、氏名と共に提出日（第1回目、第2回目、最終提出日）を記載下さい。レポート本文では、テキストや文献資料を引用し、課題に関する一般的な知識を整理いただき、次に、自身の研究テーマ（仮）に当てはめて、その課題を考えてみて下さい。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メー ル ア ド レ ス	atakah7@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (1年次)

第 1 回	レポ ー ト 課 題	臨床疫学(clinical epidemiology)的な研究方法について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	理学療法分野の研究では、得られた研究結果をより信憑性の高いものとするため、疫学的な研究手法を応用しさらに証明水準の高い研究に取り組むことで、エビデンスが蓄積されています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参 考 文 献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポ ー ト 課 題	内科慢性疾患の機能的重症度を評価する尺度の妥当性と信頼性について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに関係した変数についてその測定のための指標や尺度を調べた上で、先行研究を検索して信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参 考 文 献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポ ー ト 課 題	内科慢性疾患に対する理学療法効果に関する良質な科学的証拠
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	あなたの関心の疾病における病期あるいは障害レベルからみて、科学的な知見に裏打ちされた理学療法支援を行うために、何が明らかにされ、これから解明していかなければならない研究領域は何かについてまとめてください。
	参 考 文 献	必要と考えられる文献は、次の URL にて各自で検索して Abstract 等を用いること： http://www.pedro.fhs.usyd.edu.au/index.html 【学術書誌情報データベース The Physiotherapy Evidence Database (通称 PEDro)】
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日(土)
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	高橋 淳	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	生活障害に対する評価や科学的な支援方法の確立をめざして					
使用するテキスト	<p>・『成功する科学論文 構成・プレゼン編』 Janice R. Matthews (著)、Robert W. Matthews (著)、畠山 雄二 (翻訳)、秋田 カオリ (翻訳) 丸善 2009年</p> <p>・『成功する科学論文 ライティング・投稿編』 Janice R. Matthews (著)、Robert W. Matthews (著)、畠山 雄二 (翻訳)、秋田 カオリ (翻訳) 丸善 2009年</p> <p>・『臨床疫学 第2版 EBM実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー、スーザン W. フレッチャー (著)、福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年</p>					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防、ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも、適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け、今後諸君が研究を進めるためには、生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で、自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本特論においては、生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため、1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル (ICF; WHO国際生活機能分類など) を援用し、複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について、実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて、2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し、その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ、本特論では特に「内科慢性疾患患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』、『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』、および『理学療法効果に関する良質な証拠』」に焦点をあて、研究テーマに関連する知識や技術を習得する。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問の解決のための研究計画を実行し、その結果の正確な記述や比較、考察内容の構成ができる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	レポート課題をまとめるに当たっての留意点：1頁目は表紙とし、課題名、学籍番号、氏名と共に提出日 (第1回目、第2回目、最終提出日) を記載下さい。レポート本文では、テキストや文献資料を引用し、課題に関する一般的な知識を整理いただき、次に、自身の研究テーマ (仮) に当てはめて、その課題を考えてみて下さい。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	atakah7@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (2年次)

第 4 回	レポ ー ト 課 題	海外で開発された測定尺度を本邦の研究で用いることについて
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	理学療法研究を進める上で、測定すべき現象を絞り込み、その測定方法を探すと、欧米の研究論文で尺度開発がすでになされていることがほとんどであろう。さて、あなたの研究計画で扱う概念のひとつについて、英語圏で尺度開発され、妥当性と信頼性が十分に支持されたものを見つけたとする。あなたの調査票に日本語化して載せたい、となったときに必要となる手順を説明してください。実際にあなたが使う尺度を示して説明しても良い。
	参 考 文 献	・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー、スーザン W. フレッチャー (著)、福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日 (木)
第 5 回	レポ ー ト 課 題	先行研究の整理と批判的吟味について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	収集した論文を読んでみると、あなたの研究関心に似た知見はすでに得られていると気づくことが多いであろう。研究テーマの適切性を裏付けるためには、研究関心を基に収集した先行研究を批判的に読み取ることが不可欠である。そこで、あなたがこれまでの研究活動で収集した論文はそれぞれ、何を発見して、同時に発見の際に何が不十分・曖昧であったり、問題点であったりするのかが、「アブストラクトテーブル」を作って論述してください。
	参 考 文 献	・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー、スーザン W. フレッチャー (著)、福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日 (金)
第 6 回	レポ ー ト 課 題	研究論文において「考察」をどのように構成するか
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	例えば、“内科慢性疾患（自分で適宜選択）の理学療法”に関する自然科学系の論文を想定し、その考察の書き方について調べてください。書き方とは「考察」に係る構成要素のことであり、自由な発想を織りまぜて構わないので、しっかりと論述してください。なお、あなたの研究計画で扱う内容を例として示しても良い。
	参 考 文 献	・『成功する科学論文 構成・プレゼン編』 Janice R. Matthews (著)、Robert W. Matthews (著)、 畠山 雄二 (翻訳)、 秋田 カオリ (翻訳) 丸善 2009年 ・『成功する科学論文 ライティング・投稿編』 Janice R. Matthews (著)、Robert W. Matthews (著)、 畠山 雄二 (翻訳)、 秋田 カオリ (翻訳) 丸善 2009年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日 (土)
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	原 田 和 宏	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	生活障害に対する評価や科学的な支援方法の確立をめざして					
使 用 する テ キ ス ト	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて，2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に「脳血管障害患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』、『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』，および『理学療法効果に関する良質な証拠』」を習得する。</p>					
到 達 目 標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつけることができ，解決のために研究計画を作成できる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>レポート課題をまとめるに当たっての留意点：</p> <p>1頁目は表紙とし，課題名，学籍番号，氏名と共に提出日（第1回目，第2回目，最終提出日）を記載下さい。レポート本文では，テキストや文献資料を引用し，課題に関する一般的な知識を整理いただき，次に，自身の研究テーマ（仮）に当てはめて，その課題を考えてみて下さい。フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メー ル ア ド レ ス	k_harada@kiui.ac.jp					

課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	臨床疫学(clinical epidemiology)的な研究方法について
	レポート作成のポイント	理学療法における観察研究は、得られる研究結果をより信憑性のあるものとするために、疫学的研究に応用して日々発展しています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野巨・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポート課題	脳血管障害の機能的重症度を評価する尺度の妥当性と信頼性について
	レポート作成のポイント	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに関係した変数についてその測定のための指標や尺度を調べた上で、先行研究を検索して信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野巨・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポート課題	脳血管障害に対する理学療法効果に関する良質な科学的証拠
	レポート作成のポイント	たとえば、脳血管障害に対する理学療法の効果は、ランダム化比較試験による研究成果を基に再考されつつありますが、未だ成果は多くはありません。そこで、あなたの関心の疾病における病期あるいは障害レベルからみて、科学的な知見に裏打ちされた理学療法支援を行うために、何が明らかにされ、これから解明していかなければならない研究領域は何かについてまとめてください。
	参考文献	・『脳卒中治療ガイドライン 2015〔追補 2019〕』脳卒中学会 2019年 https://www.jsts.gr.jp/img/guideline2015_tuiho2019_10.pdf にて閲覧する。 ※その他必要と考えられる文献は、次の URL にて各自で検索して Abstract 等を用いること http://www.pedro.fhs.usyd.edu.au/index.html 【学術書誌情報データベース The Physiotherapy Evidence Database (通称 PEDro)】
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	原 田 和 宏	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	生活障害に対する評価や科学的な支援方法の確立をめざして					
使 用 す る テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・『臨床疫学 第2版 EBM実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年 ・『EBM医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー (著), 折笠 秀樹 (翻訳) 医学書院 2001年 					
講義概要・ 一 般 目 標	<p>有病者や高齢者の障害予防, ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも, 適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け, 今後諸君が研究を進めるためには, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で, 自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル (ICF; WHO国際生活機能分類など) を援用し, 複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について, 実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて, 2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し, その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ, 本講では特に「脳血管障害患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』, 『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』, および『理学療法効果に関する良質な証拠』」に焦点をあて, 研究テーマに関連する知識や技術を習得する。</p>					
到 達 目 標	臨床現場で抱える問題や疑問の解決のための研究計画を実行し, その結果の正確な記述や比較, 考察内容の構成ができる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>レポート課題をまとめるに当たっての留意点:</p> <p>1頁目は表紙とし, 課題名, 学籍番号, 氏名と共に提出日 (第1回目, 第2回目, 最終提出日) を記載下さい。レポート本文では, テキストや文献資料を引用し, 課題に関する一般的な知識を整理いただき, 次に, 自身の研究テーマ (仮) に当てはめて, その課題を考えてみて下さい。フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メー ル ア ド レ ス	k_harada@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (2年次)

第 4 回	レポ ー ト 課 題	海外で開発された測定尺度を本邦の研究で用いることについて
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	理学療法研究を進める上で、測定すべき現象を絞り込み、その測定方法を探すと、欧米の研究論文で尺度開発がすでになされていることがほとんどであろう。 さて、あなたの研究計画で扱う概念のひとつについて、英語圏で尺度開発され、妥当性と信頼性が十分に支持されたものを見つけたとする。あなたの調査票に日本語化して載せたい、となったときに必要となる手順を説明してください。実際にあなたが使う尺度を示して説明しても良い。
	参 考 文 献	・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 □バート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日 (木)
第 5 回	レポ ー ト 課 題	先行研究の批判的吟味の実際
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	収集した論文を読んでもみると、あなたの研究関心に似た知見はすでに得られていると気づくことが多いであろう。研究テーマの適切性を裏付けるためには、研究関心を基に収集した先行研究を批判的に読み取ることが不可欠である。そこで、あなたがこれまでの研究活動で収集した論文はそれぞれ、何を発見して、同時に発見の際に何が不十分・曖昧であったり、問題点であったりするのかが、アブストラクトテーブルを作って論述してください。
	参 考 文 献	・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 □バート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日 (金)
第 6 回	レポ ー ト 課 題	自然科学系の研究論文で、あなたは考察をどのように構成するか
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	例えば、“脳血管障害の理学療法”に関する自然科学系の論文を想定し、その考察の書き方について調べてください。 書き方とは「考察」に係る構成要素のことであり、自由な発想を織りまぜて構わないので、しっかりと論述してください。なお、あなたの研究計画で扱う内容を例として示しても良い。
	参 考 文 献	・『EBM 医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー (著), 折笠 秀樹 (翻訳) 医学書院 2001年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日 (土)
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	佐藤 三 矢	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	本講義では、特に高齢者における障害の回復や予防に向けた評価と支援方法の確立を指向した研究方法論について展開する。					
使用するテキスト	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年					
講義概要・一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・有病者や高齢者における障害予防ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためには、適切な評価と科学的視点に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向けて今後の研究を進めるためには、生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。 ・そこで本講では、生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため、まずは各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し、複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について実証的に解明していく研究方法について学修する。 ・また併せて、対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し、その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。 <p>以上の学修を踏まえ、本講では特に高齢者における障害の回復と予防に向けた評価と支援方法に焦点をあて、研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>					
到達目標	<p>① 履修者が修士論文における研究テーマとしている対象者について文献レビューを通じて障害構造の特徴や傾向について文献的考察を実施することができる（レポート提出にて到達度を確認）。</p> <p>② ①の課題内容をふまえた上で、学生自身の研究テーマや研究方法について考察を行うことができる（レポート提出にて到達度を確認）。</p>					
評価方法	科目修了試験（特に口頭試問）により、本科目における学習によって得られた知識・理解度について評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料を熟読し、与えられた課題を達成する過程を通じて自分自身で考え、それをまとめる力をつける。そして、その事柄について討論が出来るようにすること。 ・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。 					
教 員 メールアドレス	sato38@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (1年次)

第 1 回	レポート課題	臨床疫学(clinical epidemiology)的な研究方法について
	レポート作成のポイント	理学療法における観察研究は、得られる研究結果をより信憑性のあるものとするために、疫学的研究に応用して日々発展しています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポート課題	高齢者の「身体面と精神面(認知症やQOL)」における機能的状態や健康を評価するための尺度について
	レポート作成のポイント	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに関係した変数についてその測定のための指標や尺度を調べた上で、先行研究を検索して信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポート課題	高齢者の「身体面と精神面(認知症やQOL)」における障害の回復や予防を目的とする科学的介入を前提とした先行研究のレビュー
	レポート作成のポイント	高齢者に対する科学的な知見にもとづいた理学療法支援を行うために、これまでに何が明らかにされ、これから解明していかなければならない研究領域は何かについて、「国内と海外の先行研究」をレビューし、まとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ※その他必要と考える文献は各自で検索し、参考にすること。
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	佐藤 三 矢	開講年次	1～2	授業形態	T科目	単位数	8単位
	テ ー マ		生活障害に対する評価や科学的な支援方法の確立をめざして						
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『臨床研究マスターブック』福井 次矢（編集） 医学書院 2008年 ・『医学・自然科学研究者のための学術論文・電子投稿マニュアルーネット投稿の準備・実際の投稿プロセス・改稿まで』Federico DiRocco（著），大井 静雄（著） メジカルビュー社 2006年 								
講義概要・一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。 ・そこで本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について学修する。 ・併せて，対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。 <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に「脳血管障害患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』，『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』，および『理学療法効果に関する良質な証拠』」に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>								
到達目標	<p>①学生がテーマとしている研究対象者について，障害構造の特徴や傾向における哲学的なまでに考察を行うことができる（レポート提出にて到達度を確認）。</p> <p>②①の課題内容をふまえた上で，学生自身の研究テーマや研究方法について多角的に考察を行うことができる（レポート提出にて到達度を確認）。</p>								
評価方法	科目修了試験（特に口頭試問）により，本科目における学習によって得られた知識・理解度について評価する。								
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。								
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料等を熟読し，与えられた課題を達成する過程を通じて自分自身で考え，それをまとめる力をつける。そして，その事柄について討論が出来るようにすること。 ・フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。 								
教員メールアドレス	sato38@kiui.ac.jp								

課 題 内 容 (2年次)

第 4 回	レポ ー ト 課 題	海外で開発された測定尺度を本邦の研究で用いることについて
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	理学療法研究を進める上で、測定すべき現象を絞り込み、その測定方法を探すと、欧米の研究論文で尺度開発がすでになされていることがほとんどであろう。 さて、あなたの研究計画で扱う概念のひとつについて、英語圏で尺度開発され、妥当性と信頼性が十分に支持されたものを見つけたとする。あなたの調査票に日本語化して載せたい、となったときに必要となる手順を説明してください。実際にあなたが使う尺度を示して説明しても良い。
	参 考 文 献	・『臨床研究マスターブック』福井 次矢（編集） 医学書院 2008年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日（木）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	先行研究の批判的吟味の実際
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	収集した論文を読んでもみると、あなたの研究関心に似た知見はすでに得られていると気づくことが多いであろう。研究テーマの適切性を裏付けるためには、研究関心を基に収集した先行研究を批判的に読み取ることが不可欠である。そこで、あなたがこれまでの研究活動で収集した論文はそれぞれ、何を発見して、同時に発見の際に何が不十分・曖昧であったり、問題点であったりするのかが、アブストラクトテーブルを作って論述してください。
	参 考 文 献	・『臨床研究マスターブック』福井 次矢（編集） 医学書院 2008年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日（金）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	自然科学系の研究論文で、あなたは考察をどのように構成するか
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	例えば、“脳血管障害の理学療法”に関する自然科学系の論文を想定し、その考察の書き方について調べてください。 書き方とは「考察」に係る構成要素のことであり、自由な発想を織りまぜて構わないので、しっかりと論述してください。なお、あなたの研究計画で扱う内容を例として示しても良い。
	参 考 文 献	・『医学・自然科学研究者のための学術論文・電子投稿マニュアルーネット投稿の準備・実際の投稿プロセス・改稿まで』Federico DiRocco（著）、大井 静雄（著） メジカルビュー社 2006年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日（土）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	日高正巳	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	生活障害に対峙する理学療法学の確立と継承を目指した理学療法指導者の育成について					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『EBMのための臨床疫学』 縣 俊彦 中外医学社 2003年 ・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ・『セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ 第3版』 中川法一編 三輪書店 2019年 					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて，2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法を修得する。</p> <p>本稿では特に「質の高い理学療法士の育成」についての理解を深めるため，</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学・専門学校での養成教育ならびに臨床実習施設での臨床実習教育が抱える課題を捉える力を修得する。 ○ 養成の質的向上に必要な教育手法を修得する。 					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 理学療法士養成教育が抱える課題を列挙できる。 2) 養成教育の教育手法について説明できる。 3) クリニカル・クラークシップによる臨床実習について説明できる。 4) Outcome Based Educationとしての到達目標について説明できる。 					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題出題の意図，及び課題の進め方 臨床研究の方法について学修した後，学修の主たるテーマである「学修者の評価」に焦点を充て，どのような評価を用いることで，学びを捉え，そして，どのような教育プログラムにつながるのかをまとめて行くと言う構成を意図した課題設定となっています。 ・レポート課題をまとめるにあたっての留意点 レポート課題をまとめるに際して，各参考文献の内容の要約に留まることなく，実際の研究テーマとの関連性を意識して作成することが必要です。特に，教育プログラムは，上手く絞ってまとめていかなければ，漫然とした論述になってしまいますので，養成教育か臨床教育かというポイントを絞った上でまとめることが必要です。 ・効果的な学修の流れ 文献を読むことはもとより，教育環境等の社会情勢の影響を受けるテーマでもあるため，高等教育全般の流れという大局的な見地を含めて考えていくと，目のポイントだけに留まることなく，幅広い学びを展開することが可能です。 <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	pt-hidaka@umin.ac.jp					

課 題 内 容 (1年次)

第 1 回	レポ ー ト 課 題	理学療法教育の見直しの観点から求められる研究方法について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	理学療法における観察研究は、得られる研究結果をより信憑性のあるものとするために、疫学的研究に応用して日々発展しています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参 考 文 献	・『EBMのための臨床疫学』 縣 俊彦 中外医学社 2003年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポ ー ト 課 題	対象者の主観的な状況を評価する手法について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われる一方、主観的な要因については、数値で測りきれないことも多くあります。そこで、あなたの研究テーマに関係した要因についてその評価手法を調べた上で、先行研究を検索して信頼性等の裏付けがどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参 考 文 献	・『21世紀型スキル：学びと評価の新たなかたち』 三宅なほみ監訳 北大路書房、2014年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポ ー ト 課 題	質の高い理学療法士の養成プログラム開発
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	幅広い領域を対象とする中で、質の高い理学療法士の育成を目指していくためには、十分に検討された教育プログラムが準備されなければなりません。養成教育の最大の目的は、どのような臨床スキルを有した有資格者を輩出するかという Outcome を意識した教育の展開です。養成教育あるいは臨床実習教育のいずれかの立場にたってまとめて下さい。
	参 考 文 献	・『セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ 第3版』 中川法一編 三輪書店 2019年 ・日本理学療法士協会編：『臨床実習の手引き』ならびに『理学療法教育モデル・コア・カリキュラム』
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和4年12月10日(土)
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	日 高 正 巳	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	生活障害に対峙する理学療法学の確立と継承を目指した理学療法指導者の育成について					
使 用 す る テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・『ポートフォリオ評価とコーチング手法』鈴木敏恵 医学書院 2006年 ・『Q&Aでよくわかる！見方・考え方を育てるパフォーマンス評価』西岡加名恵, 石井英真著：明治図書, 2018年 ・『セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ第3版』中川法一編, 三輪書店, 2019年 					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防, ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも, 適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け, 今後諸君が研究を進めるためには, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で, 自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル(ICF; WHO国際生活機能分類など)を援用し, 複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について, 実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて, 2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探究し, その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>本稿では特に「質の高い理学療法士の育成」に焦点をあてた学修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学・専門学校での養成教育ならびに臨床実習施設での臨床実習教育が抱える課題について理解する。 ○ 養成の質的向上に必要な教育手法について理解する。 					
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 質の高い理学療法士を輩出するための教育プログラムを立案する 2) クリニカル・クラークシップによる臨床実習指導モデルを提示できる。 3) Outcome Based Educationとしての到達目標を設定できる。 					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題出題の意図, 及び課題の進め方 臨床実習教育をはじめとして, 臨床力向上を目指す中で臨床教育は大きな変革の時を迎えている。同時に, 良質な臨床教育の展開がなされなければ, 時間の浪費にもなりかねない。そのため, 学修者の到達点を明確にした上で, 効果的な臨床教育の方法について, 考察していくことを意図した課題としている。 ・レポート課題をまとめるにあたっての留意点 医学生, 看護学生等, 他職種の教育制度の歴史等を参考にし, 他職種が取り組んでいる戦略の中からいいものは取り入れるという視点で, 批判的吟味を加えながらまとめていくとよい。また, 対象者視点を大切に, 常に, 対象者にとってもよい方法とは何かということを念頭において考えていくことを求める。 ・効果的な学修の流れ 従来の方で問題がなかったというのではなく, 現在の社会情勢の中で, 社会的要請としてどのようなことが求められているのかという立場にたち, 常に, コンプライアンスを意識した上で, 学びの計画を立てていくことが効果的な学修につながるものである。 フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。 					
教 員 メールアドレス	pt-hidaka@umin.ac.jp					

課題内容(2年次)

第 4 回	レポート課題	臨床実習指導における対象者の到達度評価について
	レポート作成のポイント	臨床実習を通して実習生がどのような学びをしたのかを明確にするためには、どのような評価方法が適切なのか についてまとめて下さい。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『ポートフォリオ評価とコーチング手法』鈴木敏恵 医学書院 2006年 ・『教育目標をデザインする』RJ マルザーノ他 北大路書房 2013年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 5 回	レポート課題	効果的な臨床実習指導の展開に求められる指導者の能力について
	レポート作成のポイント	臨床実習指導を効果的に展開するためには、指導者の指導スキルが求められる。しかし、そのスキルとは単なる臨床能力だけではなく、自らの臨床活動を通して、実習生に働きかける技量とも言えよう。どのような指導的役割を果たすことが指導者に求められるのかについてまとめて下さい。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『Q&Aでよくわかる！見方・考え方を育てるパフォーマンス評価』西岡加名恵, 石井英真著：明治図書, 2018年 ・『「学びの責任」は誰にあるのか、「責任の移行モデル」で授業が変わる』
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 6 回	レポート課題	提唱したい臨床実習モデルにおける学修展開とは
	レポート作成のポイント	理想とする臨床実習モデルを多くの施設で展開できるようにしていくためには、具体的なイメージを形成してもらうことが必要である。実習生の学びの段階においてどのような実習シナリオが展開されるかについて、実習シミュレーションとしてのシナリオを作成して下さい。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『見習いドクター、患者に学ぶ』林大地 集英社新書, 2008年 ・『セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ第3版』中川法一編, 三輪書店, 2019年
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	横井輝夫	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	認知症を有する人に対する評価と科学的な支援方法の確立をめざして —特に理学療法士の視点から—					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『EBMのための臨床疫学』 縣 俊彦 中外医学社 2003年 ・『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ・『私は誰になっていくの—アルツハイマー病者からみた世界』 クリスティーン・ブライデン (著), 檜垣陽子 (訳) クリエイツかもがわ 2003年 ・『私は私になっていく』クリスティーン・ブライデン (著), 馬籠久美子・檜垣陽子 (訳) クリエイツかもがわ 2004年 					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防, ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも, 適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け, 今後諸君が研究を進めるためには, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で, 自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル (ICF; WHO国際生活機能分類など) を援用し, 複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について, 実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて, 2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し, その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ, 本講では特に認知症を有する人に対して理学療法士が取り組むべきことに焦点をあて, 認知症を有する人を診る視点と評価方法を修得する。</p>					
到達目標	認知症を有する人の生活機能障害に対し, 理学療法の視点に立った研究方法と評価方法を説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。Eメールでの問い合わせや相談は随時行ないます。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の留意点：まず先入観を排除し, 当事者の言葉から理解すること。 ・課題の進め方：院生とメールを用いた討論で進める。 ・フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。 					
教員メールアドレス	joy_yokoi@yahoo.co.jp					

課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	臨床疫学(clinical epidemiology)的な研究方法について
	レポート作成のポイント	理学療法における観察研究は、得られる研究結果をより信憑性のあるものとするために、疫学的研究に応用して日々発展しています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参考文献	・『EBMのための臨床疫学』 縣 俊彦 中外医学社 2003年 ・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 2 回	レポート課題	評価尺度の妥当性と信頼性について
	レポート作成のポイント	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに関係した変数についてその測定のための指標や尺度を調べた上で、先行研究を検索して信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 3 回	レポート課題	認知症に対して理学療法士として取り組むべき視点からの先行研究のレビュー
	レポート作成のポイント	認知症を有する人に対して理学療法士として何ができるか、何をすべきかを、先行研究のレビューとあなたの臨床経験から整理して下さい。
	参考文献	・『認知症の正しい理解と包括的ケアのポイント 第3版』 山口晴保・他(著)、協同医書出版社 2016年 ・『認知症』横井輝夫(著)、理学療法士のための在宅療養者の診かた、杉元雅晴(編)、文光堂、pp103-113、2015年、
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	横 井 輝 夫	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	認知症を有する人に対する評価と科学的な支援方法の確立をめざして —特に理学療法士の視点から—					
使 用 す る テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・『臨床研究マスターブック』 福井 次矢(編集) 医学書院 2008年 ・『医歯薬英語の訳し方・書き方』 大井 毅(著) 朝日出版社 2005年 ・『EBM医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー(著), 折笠 秀樹(翻訳) 医学書院 2001年 ・『医学・自然科学研究者のための学術論文・電子投稿マニュアル—ネット投稿の準備・実際の投稿プロセス・改稿まで』 Federico DiRocco(著), 大井 静雄(著) メジカルビュー社 2006年 					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防, ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも, 適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け, 今後諸君が研究を進めるためには, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で, 自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル(ICF; WHO国際生活機能分類など)を援用し, 複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について, 実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて, 2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し, その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ, 本講では特に認知症を有する人に対して理学療法士が取り組むべきことに焦点をあて, 科学的な支援方法を修得する。</p>					
到 達 目 標	認知症を有する人の生活機能障害に対し, 理学療法の視点に立った科学的な支援方法を説明できる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。Eメールでの問い合わせや相談は随時行ないます。					
学 修 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ・留意点: ご自身の臨床経験に基づき, 文献に振り回されないようにして下さい。 ・効果的な学修: 臨床経験に基づいて納得できる文献から芋づる式に先行研究を調べる。 ・フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。 					
教 員 メールアドレス	joy_yokoi@yahoo.co.jp					

課題内容(2年次)

第 4 回	レポート課題	英語の key 論文の翻訳
	レポート作成のポイント	認知症において、あなたの研究テーマのキーになる英語論文1編を日本語に訳して下さい。英語論文と日本語訳を同時に提出して下さい。
	参考文献	・『医歯薬英語の訳し方・書き方』大井 毅(著) 朝日出版社 2005年
	レポート提出期限	令和4年6月30日(木)
第 5 回	レポート課題	先行研究の整理
	レポート作成のポイント	あなたの研究テーマに関連する国内外の先行研究を整理して下さい。そして、あなたの研究テーマの重要性と独自性を明確に述べて下さい。
	参考文献	・『臨床研究マスターブック』福井 次矢(編集) 医学書院 2008年
	レポート提出期限	令和4年9月30日(金)
第 6 回	レポート課題	論文の構成について
	レポート作成のポイント	論文には「緒言」「対象」「方法」「結果」「考察」「結語」など記述すべき内容と順序が決められています。それぞれの項目は、何を記述するのかを明確に述べて下さい。
	参考文献	・『EBM 医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー(著), 折笠 秀樹(翻訳) 医学書院 2001年 ・『医学・自然科学研究者のための学術論文・電子投稿マニュアルーネット投稿の準備・実際の投稿プロセス・改稿まで』 Federico DiRocco(著), 大井 静雄(著) メジカルビュー社 2006年
	レポート提出期限	令和4年12月10日(土)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	齋藤 圭介	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	高齢者の自立支援や障害予防を指向した研究方法論上の知識と技術の修得をめざして					
使用するテキスト	適宜，資料を配布する。					
講義概要・一般目標	生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために，各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用し，疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学修する。あわせて，個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に高齢者の自立支援と障害予防に焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈，先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言，受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>本科目は，テキスト科目で修得される研究方法論に関する基本的知識，ならびに平素取り組んでいる研究課題を基盤に，直接的指導に基づく研究方法論の実践的知識の学修をねらいにしたものである。</p> <p>スクーリングまでの事前学修事項として，事前にスクーリング学修課題に関連したテーマで具体的課題を指示する。スクーリング修了後についても，生活機能障害に関する研究理解と自身の研究テーマに即した課題を指示するため，積極的姿勢で取り組むことを期待する。</p> <p>スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。</p>					
教員メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	高橋 淳	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	高齢者の自立支援や障害予防を指向した研究方法論上の知識と技術の修得をめざして					
使用するテキスト	適宜，資料を配布する。					
講義概要・一般目標	生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために，各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用し，疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学修する。あわせて，個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に高齢者の自立支援と障害予防に焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈，先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言，受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>本科目は，テキスト科目で修得される研究方法論に関する基本的知識，ならびに平素取り組んでいる研究課題を基盤に，直接的指導に基づく研究方法論の実践的知識の学修をねらいにしたものである。</p> <p>スクーリングまでの事前学修事項として，事前にスクーリング学修課題に関連したテーマで具体的課題を指示する。スクーリング修了後についても，生活機能障害に関する研究理解と自身の研究テーマに即した課題を指示するため，積極的姿勢で取り組むことを期待する。</p> <p>スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。</p>					
教員メールアドレス	atakah7@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	原田 和 宏	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テ ー マ	この講義では、脳血管障害患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』、『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』、および『理学療法効果に関する良質な証拠』の修得を目標とする。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用し、疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に理学療法士の立場から、臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつけ解決のために研究計画を作成することに焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>「スクーリングまでの事前学修事項」</p> <p>修士論文研究計画の進捗状況を配付資料として作成して下さい。1年次では計画をワードファイルやエクセルファイルに、2年次では研究実施内容をプレゼンテーション用のパワーポイントファイルで作成しましょう。</p> <p>「スクーリング終了後の学修事項」</p> <p>ゼミ形式での議論の内容を十分に反芻して、修士論文の課題解決法を考えましょう。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。</p>					
教 員 メールアドレス	k_harada@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	佐藤 三矢	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	本講義では「地域在住高齢者のための介護予防」や「施設入所者（認知主高齢者も含む）におけるQOL」に関連する評価・介入をテーマとして研究疑問の整理、研究計画立案が出来るようになることを目指して展開する。					
使用するテキスト	適宜に資料を配布する。					
講義概要・一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生は、生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用しながら、疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学び、これを修得する。 ・ あわせて個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。 ・ 特に現場で働く理学療法士の立場から本講義のテーマに沿った有効なアプローチを探索できる能力を修得する。 					
到達目標	個々の大学院生における研究テーマに沿って、学生自身の研究活動によって得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察を実施できるようになることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配布資料等を熟読して与えられた課題を達成する過程を通じて自分自身で考え、それをまとめる力をつけ、その事柄について討論が出来るようにすること。 ・ スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。 					
教員メールアドレス	sato38@kiui.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	日高 正巳	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この演習では、理学療法士の育成の養成教育における研究疑問の整理、研究計画を立案し、教育プランが作成できる能力の修得を目標とする。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	<p>生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用し、疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学修する。特に、理学療法士養成教育に焦点をあて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。</p> <p>理学療法教育が取り巻く課題解決を図るため、適切な教育プランの作成能力を修得する。</p>					
到達目標	<p>個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果について、文献的考察を加え、自らの考えを説明できる。</p> <p>立案した教育プランのポイントについて、その必要性、目的等を説明できる。</p>					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>「スクーリングまでの事前学修事項」 スクーリングでは、臨床教育が抱えている問題点と解決方法について議論をすることからも、日ごろの学生教育、職場教育の中で、どのような問題が発生しているのか、それに対して、どのような議論が現場ではなされているのかについて考えて臨むことが求められる。</p> <p>「スクーリング終了後の学修事項」 スクーリングでの議論を踏まえて、臨床現場で起きている臨床的課題に対して向き合い、その上で、意図的な変化を試みることで、臨床課題の変化を注意深く観察することが求められる。スクーリングでの学びを日々の臨床活動の中に活かしてみようととりくむことが必要であり、適用の可否を含めて、理論的に考えを整理していく事後活動が求められる。 スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。</p>					
教員メールアドレス	pt-hidaka@umin.ac.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
6. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
7. 教育プランの骨子検討(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の解析(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察(2年秋期スクーリング)
12. 教育プランのブラッシュアップ(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	横井輝夫	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この講義では、認知症を有する人の生活機能障害に対し、理学療法の視点に立った研究方法と評価方法が説明できることを目標とする。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用し、疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に認知症を有する人に対して理学療法士が取り組むべきことに焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。Eメールでの問い合わせや相談は随時行なう。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の留意点：まず先入観を排除し、当事者の言葉から理解する。 ・課題の進め方：院生とメールを用いた討論で進める。 ・スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。 					
教員メールアドレス	joy_yokoi@yahoo.co.jp					

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	特別研究	開講年次	授業形態	単位数
		1～2	TS科目	10単位
担当教員	掛谷益子・河村顕治・齋藤圭介・高橋 淳・田中富子・長町榮子・原田和宏・森 芳史・井上茂樹・佐藤三矢・中嶋正明・森下元賀			
テーマ	「臨床における疑問を研究で解く」の理念に基づく修士論文の具体化を行う			
使用するテキスト	各々の研究内容・テーマ，学修・研究の進捗状況に応じて，指導教員が適宜指示します。			
講義概要・一般目標	<p>講義概要：</p> <p>各々が設定した研究疑問から，疑問の定式化，先行研究の批判的吟味，研究デザインの設定，客観的な効果判定の検討を通して研究計画の立案と検討を行う。研究計画立案後は実際のデータ収集，得られたデータの分析，解釈，考察を通じて中間発表，修士論文の執筆，最終発表につなげる。スクーリングでは，個別・グループでの対面指導を行ない，研究発表会でのプレゼンテーションやグループ・ディスカッションによって，多角的に研究の進展を支援する。</p> <p>一般目標：</p> <p>修士論文としてまとめるための基本（研究テーマの設定，文献検索，研究方法の理解，研究倫理の遵守，論文の章立て・構成，引用・注の記載方法，論文・要旨の書き方など）を修得する。</p>			
到達目標	<p>各自が選定した理学療法における研究疑問について，先行研究の批判的吟味，研究デザインの検討を通して，具体的な研究計画の立案を行い，研究計画書を作成できる。</p> <p>研究計画書に基づき，研究を実施し，得られたデータの分析，解釈を通して修士論文を完成できる。</p> <p>修士論文の完成を通じて得られた研究の方法論に関して，大学院修了後も継続して実践が行える。</p>			
評価方法	論文執筆への取り組み姿勢（積極性），修士論文の完成度から評価する。			
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施する。			
学修の進め方	修士論文の作成にあたっての指導を講義で行いますが，事前準備として研究の意義や結果の考察などは自分なりの考えを持って講義に臨むようにしてください。また，講義終了後は指導された内容に関して，速やかに修正した内容を教員に報告してください。			
教員メールアドレス	masuko@kiui.ac.jp（掛谷），kawamura@kiui.ac.jp（河村），k_saito@kiui.ac.jp（齋藤），atakah7@kiui.ac.jp（高橋），tomiko@kiui.ac.jp（田中），eiko@kiui.ac.jp（長町），k_harada@kiui.ac.jp（原田），ymori@kiui.ac.jp（森），s_inoue@kiui.ac.jp（井上），sato38@kiui.ac.jp（佐藤），apollo@kiui.ac.jp（中嶋），m_mori@kiui.ac.jp（森下）			

スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年秋期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年秋期スクーリング)
7. 2年次修士論文第一次発表会参加(1年秋期スクーリング)
8. 2年次修士論文第一次発表会参加(1年秋期スクーリング)
9. 研究倫理教育(1年秋期スクーリング)
10. 今後の研究方針の決定(1年秋期スクーリング)
11. 統計解析ソフトの使用法(1年冬期スクーリング)
12. 2年次修士論文第二次発表会参加(1年冬期スクーリング)
13. 2年次修士論文第二次発表会参加(1年冬期スクーリング)
14. これまでの研究結果の分析(1年冬期スクーリング)
15. 今後の研究方針の決定(1年冬期スクーリング)
16. 1年次研究計画発表会参加(2年夏期スクーリング)
17. 1年次研究計画発表会参加(2年夏期スクーリング)
18. 修士論文中間発表会(2年夏期スクーリング)
19. 修士論文中間発表会(2年夏期スクーリング)
20. 修士論文中間発表会(2年夏期スクーリング)
21. 修士論文第一次発表会の準備1(2年秋期スクーリング)
22. 修士論文第一次発表会の準備2(2年秋期スクーリング)
23. 修士論文第一次発表会の準備3(2年秋期スクーリング)
24. 修士論文第一次発表会(2年秋期スクーリング)
25. 修士論文第一次発表会(2年秋期スクーリング)
26. 修士論文第二次発表会の準備1(2年冬期スクーリング)
27. 修士論文第二次発表会の準備1(2年冬期スクーリング)
28. 修士論文第二次発表会の準備1(2年冬期スクーリング)
29. 修士論文第二次発表会(2年冬期スクーリング)
30. 修士論文第二次発表会(2年冬期スクーリング)